

令和 7 年度
授業要項 SYLLABUS
作業療法学科



学校法人 勝浦学園
徳島医療福祉専門学校

基礎分野・専門基礎分野 目次

基礎分野

心理学 前期	1
心理学 後期	2
文学 前期	3
教育学 後期	4
社会学 前期	5
物理学 前期	6
生物学 前期	7
生物学 後期	8
統計学 前期	9
英語 前期	10
医学英語 後期	11
保健学講義 後期	12
体育学講義 後期	13
体育学実習 前期	14

専門基礎分野 1 学年

解剖学Ⅰ 前期	15
解剖学Ⅱ 後期	16
解剖学Ⅲ 後期	17
生理学講義 前期	18
生理学講義 後期	19
運動学講義 後期	20
人間発達学 後期	21
予防作業療法学 前期	22
保健医療福祉論Ⅰ 前期	23
リハビリテーション倫理学 前期	24

専門基礎分野 2 学年

生理学実習 前期	25
運動学実習 前期	26
臨床心理学 前期	27
一般臨床医学 後期	28
内科学 前期	29
内科学 後期	30
整形外科 前期	31
整形外科 前期	32
整形外科 後期	33
神経内科学 前期	34
神経内科学 後期	35
精神医学 前期	36
精神医学 後期	37
小児科学 前期	38
老年学 後期	39
リハビリテーション医学 前期	40

作業療法専門分野 目次

1 学年

作業療法概論 前期	41
作業療法概論 後期	42
作業分析学 前期	43
基礎作業学実習 前期	44
身体機能評価学Ⅰ 前期	45
身体機能評価学Ⅰ 後期	46
身体機能評価学Ⅱ 後期	47
精神機能評価学 後期	48
生活環境論 後期	49
見学実習 後期	50

2 学年

作業療法管理学Ⅰ 後期	51
身体機能評価学Ⅲ 前期	52
精神機能評価学Ⅱ 前期	53
生活機能評価学 前期	54
身体機能治療学Ⅰ 前期	55
身体機能治療学Ⅰ 後期	56
身体機能治療学Ⅱ 前期	57
身体機能治療学Ⅱ 後期	58
老年期作業治療学 前期	59
老年期作業治療学 後期	60
精神機能治療学 前期	61
精神機能治療学 後期	62
発達機能治療学 前期	63
発達機能治療学 後期	64
高次脳機能治療学 前期	65
障害別生活活動支援論 前期	66
障害別生活活動支援論 後期	67
作業療法臨床技術論 後期	68
義肢装具学 後期	69
地域作業療法支援論 後期	70
福祉用具適合論 後期	71
評価実習 通年	72

3 学年

保健医療福祉論Ⅱ 後期	73
作業療法管理学Ⅱ 後期	74
臨床作業療法学 後期	75
総合作業療法学 後期	76
職業関連活動論 後期	77
総合臨床実習 前期	78

資料 1 作業療法学科 教科書一覧	79
資料 2 作業療法学科 カリキュラムマップ	80
資料 3 教育課程表 (1 学年)	82
資料 4 教育課程表 (2・3 学年)	84

基礎分野

科目名	心理学	単位数	1単位 30時間	開講年次	1学年 前期
担当教員	川野 卓二				
科目概要 一般目標 行動目標	人の心や精神を科学としての心理学の方法を用いて理解するための枠組みとなる基本的な事柄を授業で取り上げる。心理現象を様々な立場から理解し判断できるようになるために必要な基礎知識を習得することを目的とする。				
回数	講 義 内 容				
1	序:心理学とは・なんのために学ぶのか				
2	臨床心理学:心理学的問題に対応する(第1章:臨床心理学)				
3	性格心理学:性格を捉える方法 (第2章:性格と個人差の心理学)				
4	性格の形成と変容				
5	社会的行動と態度・コミュニケーション (第3章:社会的行動の心理学)				
6	集団の働きとリーダーシップ				
7	発達心理学:幼年期の発達 (第4章:発達心理学)				
8	児童期, 青年期, 成人期, 老年期				
9	心理学的アセスメント:知能と発達 (第5章:心理的アセスメント)				
10	適正・性格のアセスメント				
11	環境をとらえる知覚 (第6章:知覚・認知・記憶の心理学)				
12	記憶と認知				
13	行動と心理学:本能的行動と学習行動 (第7章:行動と学習の心理学)				
14	学習心理学:				
15	心理学の歴史:さまざまな心理学 (第8章:心理学の歴史)				
16	心理学のこれから				
	前期試験				
教科書 及び 参考書	サトウタツヤ・渡邊芳之(著)「心理学・入門」改訂版 有斐閣アルマ				
教授方法	講義				
教材	プリントなど				
成績評価	まとめノート2回(20%) ・ 課題(10%) ・ 期末試験(70%)				
備考					
1日に2コマの授業を隔週で行う予定です。					

科目名	心理学	単位数	1単位 30時間	開講年次	1学年 後期
担当教員	川野 卓二				
科目概要 一般目標 行動目標	医療関連分野で働くことに備えて, 社会人基礎力に関わる心理, 健康心理学, 医療心理学, ポジティブ心理学などの分野について授業で取り上げる。また, 心理学実験を体験し, 収集したデータの整理, 分析と報告を通じて心理学的な方法に関する基礎知識を習得することを目的とする。				
回数	講 義 内 容				
1	社会人基礎力の心理:前に踏み出す				
2	社会人基礎力の心理:考え抜く				
3	社会人基礎力の心理:チームで働く(1)				
4	社会人基礎力の心理:チームで働く(2)				
5	データから心を探る研究の方法 (第9章:心理学の研究法)				
6	心理学実験:トレイルメイキングTest				
7	データから心を探る:データの整理と分析 (第9章:心理学の研究法)				
8	心理学実験:実験結果の整理と報告				
9	健康・医療心理学(1)				
10	健康・医療心理学(2)				
11	幼少期・児童期の心の障害				
12	青年期・熟年期の心の障害				
13	老年期の心の障害:心理療法・臨床心理学的援助				
14	恋愛心理学				
15	ポジティブ心理学				
16	OT・PTと臨床心理学的のかかわり				
	後期試験				
教科書 及び 参考書	サトウタツヤ・渡邊芳之(著)「心理学・入門」改訂版 有斐閣アルマ				
教授方法	講義・実験				
教材	プリントなど				
成績評価	まとめノート2回(20%) ・ 課題(10%) ・ 期末試験(70%)				
備考					
1日に2コマの授業を隔週で行う予定です。					

科目名	文学	単位数	1単位 30時間	開講年次	1学年 前期
担当教員	余郷 裕次				
科目概要	子どもが最初に接する文学である絵本を取り上げて、その視覚表現と文字表現とのメカニズムを明らかにする。また、文学(絵本)を享受する側のメカニズムを視覚と 聴覚との両面から明らかにする。さらに、日本の伝統的短詩形文学である短歌を取り上げて、短歌の実作に取り組む。				
回数	講 義 内 容				
	1. 絵本の視覚表現について、次の観点から講義する。				
1	①フロンタリティー(正面性)				
2	②画面構成				
3	③色の効果				
4	④進行方向				
5	⑤絵本モンタージュ				
	2. 絵本の文字表現について、次の観点から講義する。				
6	①繰り返し表現				
7	②物語性				
8	③文字のデザイン				
	3. 絵本を享受するメカニズムについて、次の観点から講義する。				
9	①ベビーシェマ(赤ちゃんの顔)の効果				
10	②色の効果				
11	③母親語(motherese)の効果				
	4. 短歌を取り上げて、自作に取り組む。				
12	①短歌創作の基礎				
13	②短歌の創作				
14	③短歌の連作の創作				
15	④歌集の制作				
教科書 及び 参考書	余郷 裕次 著 『絵本のひみつ - 絵本の知と読み聞かせの心 - 』徳島新聞社				
教授方法	講義				
教材	配布プリント				
成績評価	出席、講義への参加態度、レポート、定期試験等を総合的に評価する。				
備考					

科目名	教育学	単位数	1単位 30時間	開講年次	1学年 後期
担当教員	湯地 宏樹				
科目概要	本授業は、本学のカリキュラムにおける【基礎分野】に位置づけられる科目である。 「教育とは何か」について、理学療法士、作業療法士としての自分の問題として振り返ることを目的としている。そのために、保健・医療・福祉の分野と保育・教育学の分野との接点を探りながら、乳幼児期からの人間の成長と発達における教育の意義について考察するとともに、学習指導や生活指導の方法や技術について具体的に学んでいく。				
回数	講 義 内 容				
1	社会の中の看護と教育				
2	教育とはなにかー「教育」の概念				
3	教育の対象ー子ども観と発達				
4	社会変動と教育				
5	教育の組織化ー学校				
6	教授ー人を教えるということ				
7	訓育ー他者とのかかわりを導く				
8	養護ー教育の受け手を見まもる				
9	発達ー教育を受けて成長する				
10	学びの場ー学校と家庭				
11	教育の目標と評価				
12	教育のメディアー教育をデザインする				
13	教育の担い手ー専門性と専門職性				
14	教育の場をつくるしくみ				
15	まとめ				
16	定期試験				
教科書 及び 参考書	『系統看護学講座 基礎分野教育学(第8版)』医学書院, 2021年 (ISBN978-4-260-04215-4)				
教授方法	授業はおもに講義形式で行う。				
教材	視聴覚教材を使用する。また随時、資料を配布する。				
成績評価	定期試験 (50%)、レポート課題 (30%)、授業への参加度 (20%)を総合的に評価する。				
備考					
授業はプレゼンテーションソフトを用いて行うので、ノートを活用すること。					

科目名	社会学	単位数	1単位 30時間	開講年次	1学年 前期
担当教員	平井 昭夫				
科目概要	社会学の目的は、(1)私たちの身近にある様々な社会現象を学びつつ、(2)社会学的な思考力を身につけていくことにある。講義では、学ぶことを通じて、私たちを取り巻く世界を知り、社会のしくみを理解する。そして自分はどのような社会を生きており、そこで何をしたいのか、何ができるのかを考える出発点としたい。具体的には、①私たちの社会に関わる様々な課題を取り上げ、いかに考え対処していくのか、②古今東西のリーダーが残した言葉を学び、現代社会に生きる私たちの在り方や役割は何か、などを柱に学習する。加えて、将来の職業人としての資質を養う。				
回数	講 義 内 容				
1	1. 社会学を学ぶ意義 ○講義の内容・進め方等についてオリエンテーションを実施				
2	2. 格差と貧困	○なぜ格差問題か	○格差は拡大しているか		
3	格差と貧困	○現代社会の貧困	●リーダーに学ぶ(1)		
4	3. 恋愛と結婚	○恋愛と結婚の関係	○日本の家族の歴史		
5	恋愛と結婚	○結婚と家族の現在	●リーダーに学ぶ(2)		
6	4. ジェンダー	○ジェンダーを理解する			
7	5. 関係性と暴力	○ハラスメントを理解する	○なぜ暴力に頼るのか		
8	関係性と暴力	○『嫌われる勇気』	●リーダーに学ぶ(3)		
9	6. 権力	○社会学における権力論	○私たちをとりまく権力		
10	権力	○権力作用としての差別	●リーダーに学ぶ(4)		
11	7. 自殺	○現代日本の自殺	○社会学における自殺論		
12	8. 医療	○近代医療を理解する	○民族医療と代替医療		
13	医療	○医療化する社会	●リーダーに学ぶ(5)		
14	9. 社会の中で働くこと	○感情労働の発見	○感情労働としてのケア	●リーダーに学ぶ(6)	
15	10. まとめ	○社会学を学び、人はどうすれば幸せになれるかを考える			
	定期試験				
教科書 及び 参考書	教科書は使用しない。				
教授方法	講義が単調にならないように配慮し、「穴埋め式」のプリントを作成・配布し、学生は講義を聞き記入しながら学習する。また、いくつかのテーマを与えレポートの提出を求める。				
教材	講義用「穴埋め式」のプリント、資料プリント、レポート用紙・・・講師のほうで準備する。				
成績評価	課題提出(10回程度)・・・1回30点を標準とし30点満点、試験・・・70点満点とする。				
備考					
講義,レポートの提出・返却等を通じて、学生とのコミュニケーションを図る。					

科目名	物理学	単位数	1単位 30時間	開講年次	1学年 前期
担当教員	和田 英作				
科目概要	人体の骨格や筋は力学と、血流や血圧は流体と、神経や心電、脳波は電気と関係があり、物理学は医学の基本として重要なものであることを理解する。また、物理学の本質である論理的にものを考える力を体得する。				
回数	講 義 内 容				
1	物理学の内容、物理学を支える5本柱(力学、熱学、波学、電気学、量子学)				
2	物理学を作り上げた16世紀のビッグな人々、SI単位系 (MKSA単位系)				
3	1. 力学の世界 (1)位置、速度、加速度の定義と関係式				
4	(2)等加速度運動する物体の位置の求め方 (3)ボール投げ上げ運動の式				
5	(4)ベクトルと物理量 (5)ベクトルを用いた速度・加速度・位置の求め方				
6	(6)ベクトルの成分を表す式 (7)微分・積分を用いた速度・加速度・位置の式				
7	(8)ニュートンの運動の3法則(慣性の法則 運動の法則 作用・反作用の法則)				
8	(9)数値計算での有効数字 (10)万有引力の式 (11)基本的な4つの力				
9	(12)運動方程式の使い方 (13)運動量とは (14)運動量保存則				
10	(15)仕事量(エネルギー) (16)位置エネルギーと運動エネルギー				
11	(17)エネルギー保存則 (18)てこの原理と種類およびモーメントの式				
12	2. 波と光と音の世界 (1)音波の速さ (2)横波と縦波 (3)光の速さ				
13	3. 電気と磁気の世界 (1)電荷と電流(2)電気学、量子学におけるビッグな人々				
14	4. 医療現場で使われる診断装置(超音波診断(エコー)、MRI、NMR-CT)				
15	(1)定期試験演習問題の提示と解き方 (2)国家試験問題の提示と解き方				
16	定期試験答案返却と正解の解説				
教科書 及び 参考書	中野正博 : 「看護・医療技術者のためのたのしい物理」 日本理工学出版社				
教授方法	物理学各分野と医療との関わりを説明し、理解を深めるため例題を解説する				
教材	講義内容をよりわかりやすく解説したプリントを配布して教科書と併用する				
成績評価	定期試験の成績で評価する				
備考					
物理学に興味を持ち、積極的に授業を受講して下さい					

科目名	生物学	単位数	1単位 30時間	開講年次	1学年 前期
担当教員	山口 寛				
科目概要	理学療法士、作業療法士として必要な生物学の基礎知識を広く学習する。 細胞、組織器官、器官系の構造と働き、物質代謝とエネルギー代謝、恒常性の維持などについて科学的に学習していく。				
回数	講 義 内 容				
1	第1章 生物と細胞				
2	細胞の構造と機能				
3	細胞の構造と機能(細胞の増殖と測定)				
4	第2章 個体の成り立ち(組織)				
5	個体の成り立ち(器官)				
6	個体の成り立ち(器官系)				
7	第3章 細胞生理 原形質の化学組成				
8	細胞膜の働き				
9	第4章 生体内の物質の流れと働き				
10	物質代謝(同化)				
11	物質代謝(異化)				
12	異化生成物(腎臓の構造と働き)				
13	第5章 からだの恒常性の維持				
14	内部環境としての体液(血液の働きと血液型)				
15	血液によるからだの防衛(抗原抗体反応)				
教科書 及び 参考書	新体系看護学基礎科目「生物学」 メディカルフレンド社 生物辞典 旺文社				
教授方法	講義、 演習				
教材	必要に応じて資料作成				
成績評価	定期試験、レポート				
備考					
受講に対する留意点など: 予習と復習に励む。					

科目名	生物学	単位数	1単位 30時間	開講年次	1学年 後期
担当教員	山口 寛				
科目概要	前期に継続して学習を進める。 後期では、からだの恒常性維持、神経系とその働き、刺激と反応、生命の連続性について、DNA中心に分子生物学についても学習する。				
回数	講 義 内 容				
1	第5章 からだの恒常性の維持				
2	神経系とその働き				
3	第6章 外的刺激の受容				
4	感覚器とその働き				
5	からだの内部感覚				
6	第7章 生殖 減数分裂				
7	生殖と受精				
8	第8章 発生 発生の順序				
9	ヒトの発生				
10	発生のしくみ(オルガナイザー等)				
11	第9章 遺伝 メンデルの法則				
12	連鎖と交叉				
13	ヒトの遺伝(血液型、色盲、血友病等)				
14	核酸DNA等の構造と働き				
15	たんぱく質と形質発現、遺伝子組み換えについて				
教科書 及び 参考書	新体系看護学基礎科目「生物学」 メディカルフレンド社 生物辞典 旺文社				
教授方法	講義、問題演習				
教材	必要に応じて資料(プリント)作成				
成績評価	定期試験、レポート				
備考					
受講に対する留意点など: 予習と復習に励む。					

科目名	統計学	単位数	1単位 30時間	開講年次	1学年 前期
担当教員	小柴 俊彦				
科目概要	データの取り方, まとめ方, 統計的推測の基本的考え方を学習し“統計学に基づく考え方”を養う。 学習内容: 1. データの整理(1次元データ, 2次元データ) 2. 代表値と散布度, 相関係数 3. 確率変数と確率分布(正規分布と応用, t値不等) 4. 統計学的推測の考え方と検定の方法				
回数	講 義 内 容				
1	1. データの整理				
2	(1)度数分布表 (2)度数分布表の図示(ヒストグラム, 度数折線)				
3	2. 代表値と散布度, 相関係数				
4	(1)代表値				
5	(2)散布度				
6	(3)相関係数				
7	3. 確率変数と確率分布				
8	(1)確率変数				
9	(2)正規分布				
10	(3)いろいろな確率分布				
11	4. 統計的推測				
12	(1)統計的推測の考え方				
13	(2)母平均の検定				
14	(3)母平均の差の検定(Ⅰ)				
15	(4)母平均の差の検定(Ⅱ)				
16	(5)いろいろな検定				
教科書 及び 参考書	「基礎統計」著者 高遠節夫他2名 : 培風館				
教授方法	プロジェクターを用いての講義と演習				
教材	配布資料				
成績評価	定期試験と演習課題				
備考					
授業中に指示された演習課題は必ず提出すること。					

科目名	英語	単位数	1単位 30時間	開講年次	1学年 前期
担当教員	三浦 博				
科目概要	今日、病院を訪れる外国人が増えているし、また医療の現場で使われる英語もある。この授業は英会話を聞いて理解し、また病院などで使われる英語に関して理解力を高めるのが目的である。教科書は下記の2冊を使う。教科書①は英会話の理解力を高めるために使う。毎週授業毎に1Lessonずつ進む。教科書②は病院の現場を想定して作られたテキストであり、病院の治療現場に関係した会話、用語が多く使われている。このテキストは毎週使うが、進むスピードに関しては毎週1Unitずつ進むのではなく、時間の許すかぎり前に進んでいくという形になる。さらに、授業の途中でリラックスする目的で英語の歌が紹介される。				
回数	講 義 内 容				
1	教科書② Lesson 1) “Description”				「Unit 1」
2	” Lesson 2)	“Recorded Messages”			「Unit 1」
3	” Lesson 3)	“Conversation 1”			「Unit 1」
4	” Lesson 4)	“Position”			「Unit 2」
5	” Lesson 5)	“Math Quiz 1”			「Unit 2」
6	” Lesson 6)	“Announcement”			「Unit 3」
7	” Lesson 7)	“Graph 1”			「Unit 3」
8	” Lesson 8)	“News”			「Unit 4」
9	” Lesson 9)	“Quick Response”			「Unit 4」
10	” Lesson 10)	“On the Radio”			「Unit 5」
11	” Lesson 11)	“Interview on the Street”			「Unit 5」
12	” Lesson 12)	“Speech”			「Unit 6」
13	” Lesson 13)	“Conversation 2”			「Unit 6」
14	” Lesson 14)	“Math Quiz 2”			「Unit 7」
15	” Lesson 15)	“Report”			「Unit 7」
16	定期試験				
教科書 及び 参考書	①「Hyper Listening(Intermediate)」4th Edition 桐原書店 ②「20Medical Dialogs」古閑博美、垂石幸与、他著 鷹書房弓プレス				
教授方法	講義、演習、小テスト				
教材	教科書2冊、講師作成のプリント、CD				
成績評価	定期試験100点満点中60点以上が合格点である。				
備考					
教科書②に関して、毎週授業ごとに前の週の内容に関する小テストを実施する。また、教科書①に関してはQRコードがついており、QRコードを使って音声ダウンロードできる。各人がクラスへ来る前に家庭学習できるようになっている。					

科目名	医学英語	単位数	1単位	30時間	開講年次	1学年 後期
担当教員	三浦 博					
科目概要	卒業後理学療法士、作業療法士として働くとき、英語で書かれた本や論文を読む必要が出てくるかもしれない。その時のために、医療の現場でよく使われる英語表現に慣れ親しんでおくというのがこの授業の目的である。教科書は1冊使う。教科書①は前期から継続して使うものであり、それ以外に講師作製のプリント「医学英語(1)～(15)」が使われる。さらに長文を学習するために講師作成の別のプリントも使用される。					
回数	講義内容					
1	教科書①	「Unit 10:1」	リハビリ室での会話	②プリント	(1)	
2	〃	「Unit 10:2」	リハビリ室での会話	〃	(2)	
3	〃	「Unit 11:1」	基本的指示とリスク対策	〃	(3)	
4	〃	「Unit 11:2」	基本的指示とリスク対策	〃	(4)	
5	〃	「Unit 12:1」	関節可動域訓練	〃	(5)	
6	〃	「Unit 12:2」	関節可動域訓練	〃	(6)	
7	〃	「Unit 13:1」	早期座位とベッドサイド訓練	〃	(7)	
8	〃	「Unit 13:2」	早期座位とベッドサイド訓練	〃	(8)	
9	〃	「Unit 14:1」	車椅子と移乗動作	〃	(9)	
10	〃	「Unit 14:2」	車椅子と移乗動作	〃	(10)	
11	〃	「Unit 15:1」	マット上訓練	〃	(11)	
12	〃	「Unit 15:2」	マット上訓練	〃	(12)	
13	〃	「Unit 16:1」	立ち上がり訓練	〃	(13)	
14	〃	「Unit 16:2」	立ち上がり訓練	〃	(14)	
15	〃	「Unit 17:1」	歩行訓練	〃	(15)	
16	定期試験					
教科書 及び 参考書	①「20Medical Dialogs: 古閑博美、垂石幸与、他著（鷹書房弓プレス） ② 講師が作成したプリント					
教授方法	講義、演習、小テスト					
教材	教科書2冊、プリント、CD					
成績評価	定期試験100点満点中60点以上が合格点である。					
備考						
前の週の授業内容に関する小テストを実施する。このことにより、どれだけ身についたかが試される。						

科目名	保健学 講義	単位数	1単位 30時間	開講年次	1学年 後期
担当教員	三浦 哉				
科目概要	本講義では、定期的な運動(トレーニング)による身体機能・構造の変化を主に運動生理学的な視点から概説し、生活習慣病の予防・健康づくりに関する身体の科学的側面を理解することを目的とする。				
回数	講 義 内 容				
1	トレーニングと骨格筋代謝				
2	トレーニングと呼吸循環機能Ⅰ				
3	トレーニングと呼吸循環機能Ⅱ				
4	トレーニングと神経				
5	トレーニングと骨				
6	筋力・持久力の発育・発達				
7	全身持久力の発育・発達				
8	トレーニングと加齢				
9	トレーナビリティーと性差				
10	高血圧症と運動				
11	糖尿病と運動				
12	肥満症と運動				
13	肥満症と運動				
14	認知症と運動				
15	運動強度の設定				
教科書 及び 参考書	なし				
教授方法					
教材	随時、参考資料を配付				
成績評価	出席、授業態度、定期試験から総合判断				
備考					

科目名	体育学 講義	単位数	1単位 30時間	開講年次	1学年 後期
担当教員	三浦 哉				
科目概要	本講義では一過性の運動による身体機能・構造の変化を主に運動生理学的な視点から概説し、健康づくりに関する身体の科学的側面を理解することを目的とする。				
回数	講 義 内 容				
1	身体組成				
2	骨格筋組成				
3	骨格筋の代謝				
4	呼吸機能				
5	循環機能Ⅰ				
6	循環機能Ⅱ				
7	最大酸素摂取量				
8	エネルギー消費量				
9	三大栄養素				
10	ビタミン、ミネラル				
11	運動時のエネルギー補給				
12	エネルギー摂取と消費との関係				
13	環境と身体機能Ⅰ				
14	環境と身体機能Ⅱ				
15	ドーピング				
教科書 及び 参考書	なし				
教授方法					
教材	随時、参考資料を配付				
成績評価	出席、授業態度、定期試験から総合評価				
備考					

科目名	体育学 実習	単位数	1単位 30時間	開講年次	1学年 前期
担当教員	三浦 哉				
科目概要	本講義では、健康づくりに関する身体の科学的側面を理解することで、自らの身体・健康に対する意識を高めると同時に、具体的な身体活動の方法を実践することを目的と する。				
回数	講 義 内 容				
1	バレーボール(基礎的動作の習得)				
2	バレーボール(アンダーハンド、オーバーハンドの習得Ⅰ)				
3	バレーボール(アンダーハンド、オーバーハンドの習得Ⅱ)				
4	バレーボール(アンダーハンド、オーバーハンドの習得Ⅱ)				
5	バレーボール(スパイクの習得)				
6	バレーボール(コンビネーションプレーの習得Ⅰ)				
7	バレーボール(戦術の習得)				
8	バスケットボール(基礎的動作の習得)				
9	バスケットボール(パスの習得)				
10	バスケットボール(ランニングシュートの習得)				
11	バスケットボール(1 vs. 1のオフENSE、ディフェンスの習得)				
12	バスケットボール(2 vs. 1のオフENSE、ディフェンスの習得)				
13	バスケットボール(3 vs. 2のオフENSE、ディフェンスの習得)				
14	バスケットボール(戦術の習得)				
15	スポーツマッサージの効果				
教科書 及び 参考書	なし				
教授方法					
教材					
成績評価	出席、授業態度、定期試験から総合評価				
備考					

専門基礎分野 1 学年

科目名	解剖学 I	単位数	2単位 60時間	開講年次	1学年 前期
担当教員	木戸玲子				
科目概要	人体の正常構造を理解することを目的として、前期では骨学・関節および靱帯・筋学に関する肉眼的解剖学の基本知識を身につけ、構造と機能との関係を理解する。 さらに、骨模型などを用いた実習を行い、各構成要素の構造・位置関係などを三次元的に理解する。				
回数	講 義 内 容				
1	解剖学とは。骨格(1) 総論				
2	骨格(2) 脊柱				
3	骨格(3) 胸郭、上肢 ①				
4	骨格(4) 上肢 ②				
5	骨格(5) 下肢 ①				
6	骨格(6) 下肢 ②				
7	骨格(7) 頭蓋 ①				
8	骨格(8) 頭蓋 ②				
9	関節・靱帯(1) 総論、頭蓋の連結				
10	関節・靱帯(2) 脊柱の連結				
11	関節・靱帯(3) 上肢の連結				
12	骨学・関節学実習(1)				
13	関節・靱帯(4) 下肢の連結 ①				
14	骨学・関節学実習(2)				
15	関節・靱帯(5) 下肢の連結 ②				
16	骨学・関節学実習(3)				
17	筋系(1) 総論、頭部の筋				
18	骨学・関節学実習(4)				
19	筋系(2) 頸部の筋				
20	筋系(3) 背部の筋				
21	筋系(4) 胸部の筋				
22	筋系(5) 腹部の筋				
23	筋系(6) 上肢の筋 ①				
24	筋系(7) 上肢の筋 ②				
25	筋系(8) 上肢の筋 ③				
26	筋系(9) 下肢の筋 ①				
27	筋系(10) 下肢の筋 ②				
28	筋系(11) 下肢の筋 ③				
29	筋系(12) 筋の神経支配 ①				
30	筋系(13) 筋の神経支配 ②				
教科書 及び 参考書	1) 日本人体解剖学(改訂第20版、上・下) 南山堂 2) PT・OT・STのための解剖学 廣川書店				
教授方法	パワーポイント、板書、プリント、実習				
教材					
成績評価	定期試験(筆記試験)を行う。不合格者は再試験を行う。				
	備考				

科目名	解剖学Ⅱ	単位数	2単位 60時間	開講年次	1学年 後期
担当教員	木戸玲子				
科目概要	人体の正常構造を理解することを目的として、後期では組織学・内臓学および発生学に関する解剖学の基本知識を身につけ、構造と機能の関連性を理解する。さらに、各内臓器官相互の連関を理解するために必要な基本知識を学んでいく。				
回数	講 義 内 容				
1	細胞				
2	上皮組織				
3	結合組織(1)				
4	結合組織(2)				
5	軟骨組織				
6	骨組織				
7	血液(1)				
8	血液(2)				
9	筋組織				
10	神経組織				
11	脈管系(1) 心臓				
12	脈管系(2) 動脈系 ①				
13	脈管系(3) 動脈系 ②、静脈系、リンパ管系				
14	リンパ系組織)				
15	呼吸器				
16	消化器(1)				
17	消化器(2)				
18	消化器(3)				
19	泌尿器				
20	皮膚				
21	感覚器(1)				
22	感覚器(2)				
23	感覚器(3)				
24	生殖器(1)				
25	生殖器(2)				
26	生殖器(3)				
27	内分泌器(1)				
28	内分泌器(2)				
29	発生学(1)				
30	発生学(2)				
教科書 及び 参考書	1) 日本人体解剖学(改訂第20版、上・下) 南山堂 2) PT・OT・STのための解剖学 廣川書店				
教授方法	パワーポイント、板書、プリント、実習				
教材					
成績評価	定期試験(筆記試験)を行う。不合格者は再試験を行う。				
	備考				

科目名	解剖学Ⅲ	単位数	2単位 60時間	開講年次	1学年 後期
担当教員	羽地達次				
科目概要	末梢神経を理解することで、中枢とのつながり(上行性、下行性伝導路)を把握し身体の運動と知覚の理解を深める。 神経系の大もととニューロンを理解し、大脳と脊髄(中枢神経)の構造とそこから出る末梢神経の働きを理解する。				
回数	講 義 内 容				
1	脳の発生				
2	脊髄神経と神経叢				
3	頸神経叢とその枝				
4	腕神経叢とその枝 ①				
5	〃 ②				
6	胸神経				
7	腰神経叢とその枝				
8	仙骨神経叢とその枝 ①				
9	〃 ②				
10	上肢と下肢の発生にともなう神経分布				
11	脳神経 (1～7番)				
12	〃 (8～12番)				
13	脳幹における脳神経核				
14	下行性(運動性)伝導路				
15	上行性(知覚性)伝導路				
16	神経とは何か、神経系の系統発生、ニューロン、髄鞘形成				
17	シナプス、神経の変性と再生、中枢神経と末梢神経の概念				
18	大脳の外表面の構造と名称				
19	大脳半球内側面の構造と名称				
20	大脳の機能局在(脳地図など)				
21	大脳内部の構造と名称(基底核など)				
22	〃 (内包、視床、脳室など)				
23	〃 (線維連絡など)				
24	脳幹の構造と名称 (外部から)				
25	〃 (内部、脳神経核、伝導路)				
26	小脳の構造と名称 (外部から)				
27	〃 (内部、小脳核、伝導路)				
28	小脳の働き(特に錐体外路系における役割)				
29	脊髄の構造(知覚と運動)				
30	脊髄神経、自律神経				
教科書 及び 参考書	「PT・OT・STのための解剖学」 廣川書店 「日本人体解剖学(上) 改訂20版」金子丑之助 著 南山堂				
教授方法	主として教科書と参考書を利用して、PowerPointを用いて解説する。				
教材	適宜に他の本からPowerPointを作成して配布する。				
成績評価	授業の終了後、定期試験を行って評価する。				
備考					
授業の前半に前回の復習をする。					

科目名	生理学 講義	単位数	1単位 30時間	開講年次	1学年 前期
担当教員	北岡和義				
科目概要	生理学は医療に従事するものにとって、正常な生体機能を知る上で非常に重要な学問である。人体諸器官の正常な機能を理解し、これらの器官が統合され、どのように生命が維持されるかについて学ぶ。また、適宜関連した細胞レベルのしくみにも触れ、理解を深める。				
回数	講 義 内 容				
1	1. 生理学の基礎知識				
	生理学とは				
	生理学で用いる単位				
	水の性質				
	水の細胞膜透過				
2	細胞の構造と機能				
	物質の細胞膜透過				
	膜の電位と興奮性				
	細胞の情報伝達機構				
3	2. 神経のはたらき				
	神経系の構造				
	ニューロンとシナプス作用				
	神経の興奮と伝導				
4	中枢神経				
	末梢神経				
	自律神経				
5	3. 感覚				
	感覚の種類				
	感覚の一般的性質				
	感覚受容器の機能				
6	体性感覚				
	内臓感覚				
	特殊感覚				
7	4. 筋肉のはたらき				
	骨格筋の構造				
	骨格筋線維の構造				
8	骨格筋線維のタイプ分類				
	骨格筋の収縮				
	ヒトの筋力				
	筋の障害				
教科書 及び 参考書	PT・OTビジュアルテキスト 専門基礎 生理学（羊土社）				
教授方法	講義による				
教材					
成績評価	定期試験による				
	備考				

科目名	生理学 講義	単位数	2単位 60時間	開講年次	1学年 後期
担当教員	江口 寛(20時間) 北岡和義(40時間)				
科目概要	生理学は医療に従事するものにとって、正常な生体機能を知る上で、非常に重要な学問である。人体諸器官の正常な機能を理解し、これらの器官が統合され、どのように生命が維持されるかについて学ぶ。また、適宜関連した細胞レベルのしくみにも触れ、理解を深める。				
回数	講義内容				
江口―1	血液の作用・血液の組成	北岡―5	食物の消化・吸収・消化器系の構成		
	血液型・止血		口腔内の消化・胃における消化		
江口―2	血液凝固		小腸における消化・大腸における消化		
	赤血球沈降速度		排便・吸収・肝臓のはたらき		
	免疫性防衛系		腸内細菌叢の生理作用		
北岡―1	体液・体液量とその区分	江口―4	ホルモンの作用		
	体液の組成		ホルモン作用の特色		
	水素イオン濃度と緩衝作用		臓器ホルモン		
北岡―2	体液の酸塩基平衡		尿の生成と排泄		
	水分の収支		機能からみた腎臓の解剖と生理機能		
	体液の異常	北岡―6	尿の生成と排泄		
北岡―3	呼吸・呼吸器・呼吸運動		腎機能検査		
	肺容量・換気		腎臓のその他の機能		
	肺におけるガス交換	北岡―7	体温調節のしくみ		
	血液によるガスの運搬		体熱のバランス		
北岡―4	肺循環		体温の調節		
	呼吸運動の調節		発汗		
	呼吸機能障害・異常	北岡―8	生殖		
	運動と呼吸		性の決定		
江口―3	循環と心臓のはたらき		男性生殖器の機能		
	心臓		女性生殖器の機能		
	血管				
教科書 及び 参考書	PT・OTビジュアルテキスト 専門基礎 生理学 (羊土社)				
教授方法	講義による				
教材					
成績評価	定期試験による				
備考					

科目名	運動学 講義	単位数	1単位 30時間	開講年次	1学年 後期
担当教員	三浦 哉				
科目概要	運動学は、解剖学や生理学等の基礎医学分野を礎として構築され、物理学、心理学、社会学等の多岐にわたる学際的領域の要素をも内包している。 本講では、理学療法や作業療法に有用となる運動学の学理的基礎に対する認識を深めるとともに、2年次に開講する運動学実習との連動によって、身体活動を科学的に解析する技能を修得することを目的とする。				
回数	講 義 内 容				
1	力学概論 バイオメカニクス概論				
2	体力医科学概論				
3	運動学各論:骨・関節系				
4	運動学各論:筋系				
5	運動学各論:神経系				
6	運動学各論:感覚器系				
7	運動学各論:呼吸器				
8	運動学各論:循環器系				
9	運動学各論:代謝系 内分泌系				
10	運動学各論:上肢帯と上肢				
11	運動学各論:下肢帯と下肢				
12	運動学各論:体幹				
13	運動学各論:姿勢 歩行と走行				
14	運動生理学各論:体温調節と暑熱障害 運動処方				
15	運動心理学各論:運動発達と運動学習				
教科書 及び 参考書	中村隆一著「基礎運動学 第7版」 医歯薬出版株式会社				
教授方法					
教材					
成績評価	定期試験等				
備考					

科目名	人間発達学	単位数	1単位 30時間	開講年次	1学年 後期
担当教員	鈴木敏昭				
科目概要	人の誕生から老年期までの生涯にわたる心身の成長・発達の概要を解説する。 その中で、人の各発達段階における身体生理的特徴、心理的社会的発達の特徴について具体的に学習し、理解を深め、その援助のあり方を追求して、活かせるようにする。				
回数	講 義 内 容				
1	はじめに：人間発達学のねらいと概要				
2	乳児期の身体的生理的特徴				
3	乳児期の心理的特徴と不適応問題				
4	幼児期の身体的生理的特徴と心理的特徴				
5	幼児期の心理的不適応問題				
6	児童期の身体的生理的特徴と心理的特徴				
7	児童期の心理的不適応問題				
8	青年期の身体的生理的特徴と心理的特徴				
9	青年期の心理的不適応問題				
10	成人期の身体的生理的特徴と心理的特徴				
11	成人期の心理的不適応問題				
12	老年期の身体的生理的特徴				
13	老年期の心理的特徴				
14	老年期の心理的不適応問題				
15	まとめと生涯発達心理を理解することの大切さについて				
教科書 及び 参考書	参考書は適宜紹介する。				
教授方法	毎回プリントを配布しながら、心理テストをまじえて、講義する。				
教材	資料プリント				
成績評価	毎回の小提出物と定期試験などを総合的に評価。				
備考					

科目名	予防作業療法学	単位数	1単位 30時間	開講年次	1学年 前期
担当教員	菅村拓也(作業療法士として実務経験5年) 小林温子(作業療法士として実務経験5年)				
科目概要	「予防医学」「予防リハビリテーション」の概念を理解する。				
一般目標	予防リハビリテーションにおける作業療法の適応範囲を検討し、作業療法士の役割を学ぶ。				
行動目標	予防作業療法の目的と意義について説明できる。 予防に関連した評価について説明できる。 予防作業療法のプログラムについて説明できる。 自助・共助を促進する方法について説明できる。 健康づくり(ヘルスプロモーション)における作業療法について説明できる。				
回数	講 義 内 容				
1	予防リハビリテーション概説				菅村
2	予防リハビリテーションの関連法規と研究法				菅村
3	予防医学の分類(一次予防・二次予防・三次予防)				菅村
4	公衆衛生活動における予防活動(学校保健、地域保健、産業保健)				菅村
5	健康増進、生活習慣病予防、疾病予防について				菅村
6	予防作業療法の進め方				菅村
7	主要な疾患と予防作業療法の実践①				菅村
8	主要な疾患と予防作業療法の実践②				菅村
9	予防作業療法のための住環境整備				菅村
10	地域包括ケアシステムと介護予防				菅村
11	生活期における本人と家族に対する支援				菅村
12	加齢による身体機能、精神・認知機能低下の特徴				小林
13	介護予防分野における作業療法士の役割				小林
14	高齢者に対する評価(身体機能、活動能力)				小林
15	高齢者に対する評価(精神・認知機能)				小林
教科書 及び 参考書	参考書:予防理学療法学 要論 医歯薬出版株式会社				
教授方法	スライド講義、グループワーク				
教材	適宜プリント資料を配布する				
成績評価	定期試験100点満点中60点以上が合格点である。 定期試験の内訳は菅村75点、小林25点で評価する。				
備考					
当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。					

科目名	保健医療福祉論Ⅰ	単位数	1単位 30時間	開講年次	1学年 前期
担当教員	濱 敬介(作業療法士として実務経験6年)				
科目概要	わが国における医療制度並びに医療保険制度、福祉制度の概要とその仕組み、社会資源の活用の在り方などについて教授する。 わが国における人口動態、平均余命、疾病構造の概要の理解を図るとともに、多様化する社会環境の中で、作業療法士に求められているニーズと役割についても教授する。 作業療法の対象となる主要な疾患や傷害などの概要を教授し、リハビリテーションへの理解促進を図る。				
一般目標	医療・保険・福祉制度の概要、疾病構造と主な疾患や障害について学習する。				
行動目標	・保健に関する法律や制度の概要を述べることができる。 ・医療に関する法律や制度の概要を述べることができる。 ・福祉に関する法律や制度の概要を述べることができる。 ・保健、福祉、医療制度の現状と将来についてその概要を述べることができる。 ・作業療法の対象となる主要な疾患や傷害の概要について述べることができる。				
回数	講 義 内 容				
1	国民衛生の動向と医療①:人口動態と人口動態・健康状態と受療状況				
2	国民衛生の動向と医療②:医療と保健の動態、医療対策				
3	医療保険制度とリハビリテーション① :医療制度と医療保険制度				
4	医療保険制度とリハビリテーション② :リハビリテーションの体系				
5	医療保険制度とリハビリテーション③ :高齢化社会とリハビリテーション				
6	福祉制度について① :制度の概要と仕組み				
7	福祉制度について② :福祉制度とリハビリテーション				
8	健康増進分野の概要と作業療法士の役割				
9	地域リハビリテーション(介護保険制度)の概要と作業療法士の役割				
10	作業療法の対象となる主要な疾患や障害について① :代謝系・中枢神経障害・運動器系障害				
11	作業療法の対象となる主要な疾患や障害について② :生活習慣病・サルコペニア・フレイル・認知症				
12	パラスポーツ推進の取り組み:パラスポーツ推進の現状と課題				
13	パラスポーツに関する諸施策①:スポーツ基本法・スポーツ振興体制)				
14	パラスポーツに関する諸施策②:スポーツ基本計画とその振興)				
15	作業療法の動向と今後の展開について				
教科書 及び 参考書	入門リハビリテーション概論(医歯薬出版) 国民衛生の動向(厚生統計協会) 最新リハビリテーション医学(医歯薬出版) 医療福祉総合ガイドブック(医学書院)、その他適宜紹介する。				
教授方法	講義を主軸に展開する。				
教材	プリントを主軸とし、適宜、視聴覚教材を用いる。				
成績評価	定期試験100点満点中60点以上が合格点である。				
備考					
当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。					

科目名	リハビリテーション倫理学	単位数	1単位 30時間	開講年次	1学年 前期
担当教員	濱 敬介(作業療法士として実務経験6年)				
科目概要	リハビリテーションを実施するうえで必要不可欠な医療倫理学の基礎を学ぶとともに、障害者を取り巻く環境や、リハビリテーション医療についての問題点を理解する。				
一般目標	作業療法士を取り巻く臨床場面における倫理的問題を理解し、作業療法士として倫理的な判断能力を身につける。				
行動目標	・ 倫理学の基本事項を説明できる。 ・ 医学倫理の原則を説明できる。 ・ 倫理的問題に対して解決策を提示できる。				
回数	講 義 内 容				
1	倫理学の概要				
2	医療倫理の原則				
3	医療倫理・生命倫理・臨床倫理				
4	プライバシーと守秘義務				
5	インフォームド・コンセント、医療情報の開示と説明、真実告知				
6	終末期医療について(安楽死・尊厳死、緩和医療)				
7	自立と生活の質(QOL)				
8	ケアと倫理				
9	障害の概念、ノーマライゼーションの概念				
10	チーム医療と作業療法士の役割				
11	作業療法士の職業倫理と研究倫理				
12	作業療法士の職業倫理指針				
13	作業療法士の倫理に関わる事例(グループディスカッション)				
14	作業療法士の倫理に関わる事例(グループディスカッション)				
15	作業療法士の倫理に関わる事例(発表会)				
教科書 及び 参考書	参考書 : 医療倫理学の方法 原則・ナラティブ・手順 第3版 医学書院 作業療法管理学入門(医歯薬出版株式会社) 日本作業療法士協会 職業倫理指針				
教授方法	スライド講義、グループワーク				
教材	適宜プリント資料を配布する				
成績評価	定期試験100点満点中60点以上が合格点である。				
備考					
当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。					

専門基礎分野 2 学年

科目名	生理学 実習	単位数	1単位 45時間	開講年次	2学年 前期
担当教員	北岡和義				
科目概要	1年次で得た生理学の講義内容について、実習において自らデータ取得および考察を進めることにより深める。				
回数	講 義 内 容				
1	オリエンテーション				
	実習				
2	1. 表面電極による記録				
3	2. 心電図				
4	3. 息こらえ中の心拍数と血圧				
5	4. バルサルバ試験				
6	5. 深部感覚				
7	6. 最大酸素摂取量				
8	7. 酸素負債				
9	8. 2点識別閾				
教科書 及び 参考書	「コメディカルのための生理学実習ノート」 南江堂(参考書) 人体生理学の基礎改訂第2版 医学出版社				
教授方法	学内実習				
教材					
成績評価	出席点 レポート点				
備考					

科目名	運動学 実習	単位数	1単位 45時間	開講年次	2学年 前期
担当教員	松田 寛子(理学療法士として実務経験5年)・村上和広(理学療法士として実務経験5年) 向島充(理学療法士として実務経験6年)・芳野一也(理学療法士として実務経験6年) 出口純次(理学療法士として実務経験7年)				
科目概要	運動学実習では、複数の測定機器を用い実習体験を通して、「運動学」において学修した知識を応用し、実験から得られた生体情報を分析・解釈することで、身体運動や基本姿勢・動作のメカニズムを学修する。				
一般目標	身体各部の生態計測（形態）や測定などについて正しい知識と技術を学び，得られた結果から個体または集団について分析する。				
行動目標	歩行などの身体の基本的な動作については，測定器機を用いた生体力学的アプローチと併せて，バイオメカニクスの観点から分析し，理解する。				
回数	講 義 内 容				
1	実習オリエンテーション 1．筋力測定 2．循環機能 3．呼吸機能 4．感覚と知覚 5．生体観察 6．姿勢と歩行 7．体力テスト 8．筋電計とガス分析器操作				
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
教科書 及び 参考書	「基礎運動学 第6版 補訂」 医歯薬出版株式 会社 「運動学実習手引き書」配付				
教授方法	8グループによる、実技実習方式				
教材	運動学実習手引き書				
成績評価	レポート提出 100点満点中60点以上が合格点である。				
備考					
当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。					

科目名	臨床心理学	単位数	1単位 30時間	開講年次	2学年 前期
担当教員	古川洋和				
科目概要	臨床心理学の基本的発想を理解する。 一般目標:医療従事者として必要な臨床心理学的発想を理解する。 行動目標:①臨床心理学的支援について説明できる。②代表的な臨床心理アセスメントについて説明できる。③代表的な心の健康問題について説明できる。				
回数	講 義 内 容				
1	ライフサイクルと心の健康問題				
2	臨床心理アセスメント				
3	精神分析療法の基本的発想				
4	来談者中心療法の基本的発想				
5	行動療法の基本的発想				
6	認知行動療法の基本的発想				
7	発達障害の臨床心理学				
8	うつ病の臨床心理学				
9	統合失調症の臨床心理学				
10	認知症の臨床心理学				
11	不安症の臨床心理学				
12	依存症の臨床心理学				
13	摂食障害の臨床心理学				
14	ストレスと健康				
15	定期試験の講評とまとめ				
教科書 及び 参考書	指定しない				
教授方法	講 義				
教材	スライドならびに配布資料				
成績評価	各回における小テストならびに定期試験				
備 考					
定期試験は、国家試験に準じた形式で出題します。					

科目名	一般臨床医学	単位数	1単位 30時間	開講年次	2学年 後期
担当教員	上山 裕二 西村 明儒 八木 淑之 本藤 秀樹 浦野 芳夫 山本 恭代 斎藤 誠一郎 武田 美佐 島田 亜紀				
科目概要	身体に起こる種々の障害の把握とその対応の基礎的な事項について学習する。 病態生理と医学用語の解説、さらに救急救命、外科、脳外科、皮膚、泌尿生殖器、産婦人科、眼、耳鼻咽喉科の疾患に焦点をあて、教授する。				
回数	講 義 内 容				
1	救急医学(心肺蘇生法、ショック、呼吸管理)				上山 裕二
2	〃 (輸血、救急処置)				
3	病態生理・医学用語 (全身症状)				西村 明儒
4	〃 (局所症状)				
5	〃 (局所症状)				
6	〃 (基礎医学)				
7	〃 (基礎医学)				
8	外科総論				八木 淑之
9	脳外科				本藤 秀樹
10	皮膚疾患				浦野 芳夫
11	〃				
12	泌尿・生殖器疾患				山本 恭代
13	婦人科・産科疾患				斎藤 誠一郎
14	眼疾患				武田 美佐
15	耳鼻咽喉疾患				島田 亜紀
教科書 及び 参考書	「PT・OTのための一般臨床医学 第3版」 医歯薬出版				
教授方法	口述、板書				
教材	プリント				
成績評価	定期試験				
備考					

科目名	内科学	単位数	1単位 30時間	開講年次	2学年 前期
担当教員	木村 聡				
科目概要	総合リハビリテーション医学を習得するためには、諸種疾患の概要に精通している必要がある。高齢化社会になりつつある今日においては、特に内科学全般の知識は必要不可欠のものである。 総論において症状の徴候のとらえ方から診断に到達するまでの過程を概説し、また、各論において代表的疾患の病態や治療法について、画像評価、臨床薬学についてもふれながら概説する。				
回数	講 義 内 容				
1	臨床医学総論・症状と臨床的意義				
2	症状と臨床的意義				
3	アレルギー疾患				
4	自己免疫性疾患、膠原病、免疫不全				
5	消化器疾患 ： 食道疾患、胃・十二指腸疾患				
6	消化器疾患 ： 腸・肝臓疾患				
7	消化器疾患 ： 肝道・膵臓疾患				
8	血液・造血器疾患 ： 赤血球・白血球系疾患				
9	血液・造血器疾患 ： リンパ系疾患、血漿蛋白の異常、出血性疾患				
10	腎疾患 ： 総論				
11	腎疾患 ： 各論				
12	神経・筋疾患疾患 ： 神経学的症状(所見とその意義)				
13	神経・筋疾患疾患 ： 神経学的検査、神経系の疾患 1				
14	神経・筋疾患疾患 ： 神経系の疾患 2				
15	神経・筋疾患疾患 ： 神経系の疾患 3				
教科書 及び 参考書	「メディカルスタッフのための内科学 第5版」 医学出版社				
教授方法					
教材					
成績評価	定期試験による				
備考					

科目名	内科学	単位数	1単位 30時間	開講年次	2学年 後期
担当教員	山田 博胤 若槻 哲三 添木 武 寺野 誠 玉谷 高広 新名 大介				
科目概要	総合リハビリテーション医学を習得するためには、諸種疾患の概要に精通している必要がある。高齢化社会になりつつある今日においては、特に内科学全般の知識は必要不可欠のものである。 総論において症状の徴候のとらえ方から診断に到達するまでの過程を概説し、また、各論において代表的疾患の病態や治療法について、画像評価、臨床薬学についてもふれながら概説する。				
回数	講義内容				
1	循環器内科 : 1				山田
2	循環器内科 : 2				山田
3	循環器内科 : 3				若槻
4	循環器内科 : 4				若槻
5	内分泌				若槻
6	代謝				若槻
7	感染症				若槻
8	呼吸器 : 1				添木
9	呼吸器 : 2				添木
10	中毒				添木
11	脳卒中 : 1				寺野
12	脳卒中 : 2				寺野
13	生活習慣病・メタボリックシンドローム				玉谷
14	認知症				玉谷
15	癌				新名
16	環境要因に基づく疾患				新名
教科書 及び 参考書	「メディカルスタッフのための内科学 第5版」 医学出版社				
教授方法					
教材					
成績評価	定期試験による				
備考					

科目名	整形外科学	単位数	1単位 30時間	開講年次	2学年 前期
担当教員	加藤真介				
科目概要	整形外科領域の外傷や疾患などの病態を学び、診断方法や治療方法を理解する。総論において症状の徴候のとらえ方から診断に到達するまでの過程を概説し、また、各論において代表的疾患の病態や治療法について、画像評価、臨床薬学についてもふれながら概説する。				
一般目標	運動器の正常構造と機能を理解する。 主な運動器疾患の病態生理、原因、症候、診断と治療法を学ぶ。 問診、徒手検査、画像検査、生理学的検査の評価に基づく整形外科的疾患の診断方法の実際を身につける。 慢性および先天性運動器疾患の病態、診断、治療に関する知識を習得する。 四肢・脊椎外傷の評価法、治療方針の決定、治療の実際についての知識を習得する。				
行動目標	運動器(骨・関節・筋・神経など)の解剖および生理を理解する。 整形外科的疾患の診断・評価法、治療法の概念を理解する。 各種疾患(関節疾患、脊椎疾患、スポーツ障害、骨軟部腫瘍、代謝性疾患、先天性疾患、骨感染症等の診断と治療法)について専門知識に基づいた判断が出来る。 各種外傷(四肢の外傷、脊椎の外傷、手の外科、末梢神経損傷等)について専門知識に基づいた判断が出来る。				
回数	講義内容				
1	整形外科の基礎科学 骨:構造～修復と再生について				
2	整形外科の基礎科学 骨:構造～関節軟骨の修復と再生について				
3	整形外科の基礎科学 筋・神経・軟部組織:構造～修復と再生について				
4	整形外科の基礎科学 筋・神経・軟部組織:痛みについての理解				
5	骨腫瘍について 分類・疫学～各疾患について				
6	軟部腫瘍について 分類・疫学～各疾患について				
7	ロコモティブシンドローム・神経筋疾患の概要について				
8	ロコモティブシンドローム・神経筋疾患の検査・診断から治療について				
9	頸椎の機能解剖と診察検査法と各種疾患の概要について				
10	胸椎・腰椎の機能解剖と診察検査法と各種疾患の概要について				
11	胸椎・腰椎の機能解剖と診察検査法と各種疾患の検査・診断から治療について				
12	脊椎・脊髄損傷の病態や原因の概要について				
13	脊椎・脊髄損傷の治療について				
14	末梢神経損傷の病態と代表的な末梢神経損傷について				
15	小児の骨折・脱臼の概要とその治療について				
教科書 及び 参考書	「標準整形外科学 第15版」医学書院				
教授方法	講義				
教材	教科書				
成績評価	定期試験				
備考					

科目名	整形外科科学	単位数	1単位 30時間	開講年次	2学年 前期
担当教員	松浦哲也				
科目概要	整形外科領域の外傷や疾患などの病態を学び、診断方法や治療方法を理解する。総論において症状の徴候のとらえ方から診断に到達するまでの過程を概説し、また、各論において代表的疾患の病態や治療法について、画像評価、臨床薬学についてもふれながら概説する。				
一般目標	運動器の正常構造と機能を理解する。 主な運動器疾患の病態生理、原因、症候、診断と治療法を学ぶ。 問診、徒手検査、画像検査、生理学的検査の評価に基づく整形外科的疾患の診断方法の実際を身につける。 慢性および先天性運動器疾患の病態、診断、治療に関する知識を習得する。 四肢・脊椎外傷の評価法、治療方針の決定、治療の実際についての知識を習得する。				
行動目標	運動器(骨・関節・筋・神経など)の解剖および生理を理解する。 整形外科的疾患の診断・評価法、治療法の概念を理解する。 各種疾患(関節疾患、脊椎疾患、スポーツ障害、骨軟部腫瘍、代謝性疾患、先天性疾患、骨感染症等の診断と治療法)について専門知識に基づいた判断が出来る。 各種外傷(四肢の外傷、脊椎の外傷、手の外科、末梢神経損傷等)について専門知識に基づいた判断が出来る。				
回数	講 義 内 容				
1	医療面接・整形外科的現症の取り方				
2	画像検査				
3	検体検査・生体検査				
4	保存療法				
5	手術療法				
6	運動器疾患のリハビリテーション医療				
7	軟部組織・骨・関節の感染症				
8	関節リウマチとその類縁疾患				
9	変形性関節症とその類縁疾患				
10	四肢循環障害と阻血性壊死性疾患・先天異常症候群				
11	先天性骨系統疾患				
12	代謝性骨疾患				
13	外傷総論①				
14	外傷総論②				
15	軟部組織損傷				
教科書 及び 参考書	「標準整形外科学 第15版」 医学書院				
教授方法	講義・パワーポイント				
教材	教科書				
成績評価	定期試験				
備考					

科目名	整形外科学	単位数	1単位 30時間	開講年次	2学年 後期
担当教員	松浦哲也				
科目概要	整形外科領域の外傷や疾患などの病態を学び、診断方法や治療方法を理解する。総論において症状の徴候のとらえ方から診断に到達するまでの過程を概説し、また、各論において代表的疾患の病態や治療法について、画像評価、臨床薬学についてもふれながら概説する。				
一般目標	運動器の正常構造と機能を理解する。 主な運動器疾患の病態生理、原因、症候、診断と治療法を学ぶ。 問診、徒手検査、画像検査、生理学的検査の評価に基づく整形外科的疾患の診断方法の実際を身につける。 慢性および先天性運動器疾患の病態、診断、治療に関する知識を習得する。 四肢・脊椎外傷の評価法、治療方針の決定、治療の実際についての知識を習得する。				
行動目標	運動器(骨・関節・筋・神経など)の解剖および生理を理解する。 整形外科的疾患の診断・評価法、治療法の概念を理解する。 各種疾患(関節疾患、脊椎疾患、スポーツ障害、骨軟部腫瘍、代謝性疾患、先天性疾患、骨感染症等の診断と治療法)について専門知識に基づいた判断が出来る。 各種外傷(四肢の外傷、脊椎の外傷、手の外科、末梢神経損傷等)について専門知識に基づいた判断が出来る。				
回数	講義内容				
1	骨折・脱臼①				
2	骨折・脱臼②				
3	骨折・脱臼③				
4	肩関節				
5	肘関節				
6	手関節と手①				
7	手関節と手②				
8	股関節①				
9	股関節②				
10	股関節③				
11	膝関節①				
12	膝関節②				
13	足関節と足①				
14	足関節と足②				
15	スポーツ損傷・パラスポーツ				
教科書 及び 参考書	「標準整形外科学 第15版」医学書院				
教授方法	講義・パワーポイント				
教材	教科書				
成績評価	定期試験				
備考					

科目名	神経内科学	単位数	1単位 30時間	開講年次	2学年 前期
担当教員	和泉唯信				
科目概要	リハビリテーションに必要な神経系の症状・徴候のとらえ方、診断に到達するまでの過程、代表的疾患の病態や治療法について、臨床面から画像評価、臨床薬学についてもふれながら解説すると同時に、患者に接する基本的な態度についても教育する。				
回数	講義内容				
1	神経疾患の特徴とみかた				
2	〃				
3	中枢神経系の解剖と機能				
4	神経診察・脳神経				
5	意識障害・せん妄				
6	頭痛・めまい・失神				
7	運動麻痺・錐体路徴候・筋萎縮				
8	錐体外路徴候・姿勢異常・不随意運動				
9	運動失調・歩行障害				
10	感覚障害				
11	失語・失認・失行				
12	記憶障害・注意障害・実行機能障害				
13	構音障害・嚥下障害				
14	廃用症候群と誤用症候群				
15	脳神経外科領域疾患の代表的症候				
教科書 及び 参考書	「標準理学療法学・作業療法学 神経内科学 改訂第6版」 医学書院				
教授方法					
教材					
成績評価	定期試験				
備考					

科目名	神経内科学	単位数	1単位 30時間	開講年次	2学年 後期
担当教員	和泉唯信				
科目概要	リハビリテーションに必要な神経系の症状・徴候のとらえ方、診断に到達するまでの過程、代表的疾患の病態や治療法について、臨床面から画像評価、臨床薬学についてもふれながら解説すると同時に、患者に接する基本的な態度についても教育する。				
回数	講 義 内 容				
1	脳血管障害				
2	〃				
3	認知症				
4	〃				
5	パーキンソン病				
6	パーキンソン症候群				
7	脊髄小脳変性症・多系統萎縮症				
8	運動ニューロン疾患				
9	重症筋無力症				
10	多発性硬化症 視神経脊髄炎				
11	筋疾患				
12	末梢神経障害				
13	神経感染症				
14	脊髄疾患、外傷性脳損傷				
15	様々な神経疾患				
16	てんかん				
教科書 及び 参考書	「標準理学療法学・作業療法学 神経内科学 第6版」 医学書院				
教授方法					
教材					
成績評価	定期試験				
備考					

科目名	精神医学	単位数	1単位 30時間	開講年次	2学年 前期
担当教員	大蔵雅夫				
科目概要	精神医学は医学分野の中でも心の障害に関する学問である。身体医学との違いや、精神医学の発展について学んだ後に、様々な精神障害で出現する精神症状について詳細に学習する。さらに精神障害の診断に必要な検査や精神障害の治療方法について学んだ後、精神障害を器質性、機能性、反応性精神障害に分類した上で、代表的な精神障害の症状、診断、予後、臨床薬学を含む治療について学習する。				
回数	講義内容				
1	精神医学の理論と特徴				
2	精神医学と精神科医療の歴史				
3	精神症状(1)意識と記憶の障害				
4	精神症状(2)知覚と思考の障害				
5	精神症状(3)感情と意欲・行動の障害				
6	精神症状(4)脳の機能と高次脳機能障害				
7	精神科診断学(1)精神医学における診察法				
8	精神科診断学(2)画像検査と脳波検査				
9	精神科診断学(3)心理検査				
10	精神科治療学(1)薬物療法				
11	精神科治療学(2)身体療法				
12	精神科治療学(3)精神療法と心理社会的治療				
13	器質性精神障害の症状と治療				
14	機能性精神障害の症状と治療				
15	反応性精神障害の症状と治療				
16	定期試験				
教科書 及び 参考書					
教授方法	パワーポイントによる講義				
教材	その都度プリントを配布する				
成績評価	定期試験, 出席状況, レポート等を総合評価する				
備考					

科目名	精神医学	単位数	1単位 30時間	開講年次	2学年 後期
担当教員	大蔵雅夫				
科目概要	前期に総論的に学んだ精神症状, 検査, 治療方法などを, 個々の精神障害からの視点で再学習する。まず精神障害の発症メカニズムや分類方法について学んだ後, 個々の精神障害(器質性精神障害, 統合失調症, 気分障害, 神経症性障害, てんかんなど)の症状, 治療, 予後について詳細に学習する。				
回数	講 義 内 容				
1	精神障害の国際分類と診断基準				
2	精神障害の発症に関する仮説				
3	器質性精神障害とその治療				
4	症状性精神障害とその治療				
5	器質性精神障害とその治療				
6	精神作用物質による精神障害とその治療(1)アルコール				
7	精神作用物質による精神障害とその治療(2)薬物				
8	統合失調症と妄想性障害とその治療				
9	気分障害とその治療				
10	神経症性障害とその治療				
11	生理的障害および身体要因に関連した行動症候群とその治療				
12	成人の人格および行動の障害とその治療				
13	てんかんとその治療				
14	児童期の精神障害とその治療				
15	老年期の精神障害とその治療				
16	定期試験				
教科書 及び 参考書					
教授方法	パワーポイントによる講義				
教材	その都度プリントを配布する				
成績評価	定期試験, 出席状況, レポート等を総合評価する				
備考					

科目名	小児科学	単位数	1単位 30時間	開講年次	2学年 前期
担当教員	竹内 峻亮				
科目概要	小児は成人と違い、その個体があらゆる面で成長発育の途上にある。小児の健康を守るためには、新生児、乳児期から思春期を経て成人に至るまでの幅広い対象に対する理解が必要である。小児に対する医療においても、成長の各段階にある患者の生理的、心理的特徴を十分理解した上で、先天的な疾患や、成長の過程のトラブルとして起こる、身体的、精神的疾患について幅広い知識をもつことが必要である。そこで、まず小児の成長、発達について概説し、つづいて小児期の主要な疾患、小児保健におけるトピックスなどについて解説する。				
回数	講 義 内 容				
1	発達と発育				
2	生理				
3	栄養				
4	小児保健・事故・救急処置				
5	先天異常				
6	新生児疾患				
7	感染症・呼吸器疾患				
8	栄養・代謝性疾患				
9	内分泌疾患				
10	消化器疾患				
11	中枢神経・筋疾患				
12	血液疾患・固形腫瘍				
13	循環器疾患				
14	アレルギー・自己免疫疾患				
15	腎・泌尿器疾患				
教科書 及び 参考書	「最新育児小児病学 改訂第7版」 南江堂				
教授方法	講義				
教材					
成績評価	定期試験による				
備考					
講義開始時間を厳守すること					

科目名	老年学	単位数	1単位 30時間	開講年次	2学年 後期
担当教員	中谷 哲也				
科目概要	高齢者ではさまざまな疾患が多発し、死亡率を高めるとともに、認知症、ADL(日常生活動作)低下など、要介護高齢者を増加させる。老年医学には単なる診断、治療だけでなく、ケア、リハビリテーション、終末期医療にいたるまでの多領域を包括するところに特徴がある。本講義では高齢者特有の疾患の病態や特徴、さらに生活機能障害の評価について臨床薬学、栄養学を交えて概説する。				
回数	講 義 内 容				
1	高齢者の定義と人口動態				
2	加齢に伴う生理機能の変化				
3	〃 運動機能の変化				
4	〃 精神心理面の変化				
5	高齢者の生活機能の評価、ケア、リハビリテーション				
6	〃				
7	老齢症候群				
8	〃				
9	高齢者特有の疾患(感染症)				
10	〃 (循環器、呼吸器)				
11	〃				
12	〃 (消化器、内分泌、血液、免疫)				
13	〃 (精神神経、骨・運動器)				
14	〃 (腎・泌尿器、皮膚、口腔)				
15	〃 (耳鼻咽喉、眼)				
教科書 及び 参考書	「老年学 標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 第6版」 医学書院				
教授方法	口述、板書				
教材	プリント				
成績評価	定期試験				
備考					

科目名	リハビリテーション医学	単位数	1単位 30時間	開講年次	2学年 前期
担当教員	江西 哲也				
科目概要	理学療法士、作業療法士になるために必要なリハビリテーション医学・医療の基本的な知識並びに考え方を学び、障害を診る心を育て、人々の生活機能の回復・向上に対応する医療・福祉を学ぶ。				
回数	講義内容				
1	リハビリテーション医学・医療の成り立ち、理念、障害学				
2	リハビリテーション医療の急性期・回復期・維持期 保健・医療・福祉の連携				
3	リハビリテーション診療の手順、画像診断、電気生理、ADL				
4	治療手技のあらし、リハ工学				
5	廃用による障害、加齢による障害、発達障害				
6	中枢神経系による運動障害、歩行障害				
7	循環機能障害、呼吸障害				
8	摂食・嚥下障害、排泄障害、褥瘡				
9	高次脳機能障害(失行・失認、言語障害、認知症)のリハ				
10	脳血管障害、頭部外傷のリハ				
11	脊髄損傷のリハ、切断と義手・義足				
12	運動器(RA)疾患のリハ、疼痛のリハ				
13	外傷のリハ、脳性麻痺・筋ジストロフィーのリハ				
14	内部障害・精神障害・悪性腫瘍のリハ				
15	リハビリテーション心理と障害受容 臨床現場での心構え				
教科書 及び 参考書	最新リハビリテーション医学 第3版 医歯薬出版 2005				
教授方法	パワーポイント使用				
教材	プリント配付				
成績評価	定期試験				
備考					

作業療法専門分野 1 学年

科目名	作業療法概論	単位数	1単位 30時間	開講年次	1学年 前期
担当教員	森口智恵美(作業療法士として実務経験5年) 濱 敬介(作業療法士として実務経験6年) 徳島車いすバスケットボールクラブ(外部講師)				
科目概要	作業療法を「作業の意味」「対象と領域」「歴史」の切り口で学ぶ。 専門職としての作業療法士に必要な知識や技術を学ぶ。				
一般目標	作業療法を理解し概念を形成する				
行動目標	作業療法の定義について説明できる 作業療法の対象と領域について説明できる リハビリテーションにおける作業療法の役割について説明できる				
回数	講 義 内 容				
1	「作業」の意味				森口
2	作業療法の歴史と原理				森口
3	障害受容を学ぶ(映画鑑賞)※課題レポート				森口
4	障害受容を学ぶ(映画鑑賞)※課題レポート				森口
5	パラスポーツの意義と理念				濱
6	車椅子バスケットボール体験学習 ※感想文				車いすバスケ
7	車椅子バスケットボール体験学習				車いすバスケ
8	作業療法に関連する予備知識				森口
9	作業療法の実践現場				森口
10	作業の分析				森口
11	作業の治療的応用				森口
12	作業療法の理論				森口
13	作業療法士に求められる資質と倫理				森口
14	作業療法研究とエビデンス				森口
15	まとめ				森口
教科書 及び 参考書	標準作業療法学 専門分野 作業療法学概論 第4版 医学書院				
教授方法	講義・体験学習				
教材	PowerPoint、授業プリント、DVD				
成績評価	100点満点中60点以上が合格点である。 提出物20点、定期試験80点(内訳:森口75点、濱5点)で評価する。				
備考					
当該科目は実務経験のある教員等による授業科目である。					

科目名	作業療法概論	単位数	1単位 30時間	開講年次	1学年 後期
担当教員	森口智恵美(作業療法士として実務経験5年) 濱 敬介(作業療法士として実務経験6年) 圓井美貴子(外部講師)				
科目概要	作業療法の過程及び、各領域の作業療法の実際を学ぶ 作業療法業務に必要な管理・運営を学ぶ				
一般目標	作業療法を理解し概念を形成する				
行動目標	作業療法の過程を理解することができる 各領域の作業療法の目的や役割を理解することができる 作業療法部門における管理運営を理解することができる				
回数	講 義 内 容				
1	重症心身障害児の療育について				圓井
2	作業療法の過程				森口
3	作業療法の過程				森口
4	作業療法の過程				森口
5	作業療法の過程				森口
6	作業療法の過程				森口
7	作業療法の過程				森口
8	身体機能分野における作業療法の実際				濱
9	身体機能分野における作業療法の実際				濱
10	社会保障制度について				濱
11	作業療法部門の管理・運営				濱
12	当事者が語る統合失調症 (ビデオ鑑賞)				森口
13	精神機能分野における作業療法の実際				森口
14	発達機能分野における作業療法の実際				森口
15	まとめ				森口
教科書 及び 参考書	標準作業療法学 専門分野 作業療法学概論 第4版 医学書院				
教授方法	講義・体験学習				
教材	PowerPoint、授業プリント、DVD				
成績評価	100点満点中60点以上が合格点である。 提出物5点、定期試験95点(内訳:森口70点、濱25点)で評価する。				
備考					
当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。					

科目名	作業分析学	単位数	1単位 30時間	開講年次	1学年 前期
担当教員	森口智恵美(作業療法士として実務経験5年) 濱 敬介(作業療法士として実務経験6年)				
科目概要	作業について一般的分析を用いて分析する 作業が人に与える影響を学習する 集団内で自己を分析することで自己開示の機会を得る				
一般目標	作業の一般的分析を実践し、作業の特性を学ぶ				
行動目標	一般的分析を実践する方法を習得する 作業が人に与える影響、作業のもちい方を説明できる 交流分析を通して自分についての理解を深め、言語化することができる				
回数	講 義 内 容				
1	オリエンテーション				森口
2	交流分析プログラム1 メタ認知について				森口
3	交流分析プログラム1 エゴグラム (グループワーク)				森口
4	交流分析プログラム2 基本的な構えと脚本分析				森口
5	交流分析プログラム3 コミュニケーションパターン				森口
6	交流分析プログラム4 自己受容の度合い (グループワーク)				森口
7	作業バランスについて				森口
8	精神機能と作業分析				森口
9	身体・精神障害領域の作業分析①				濱
10	身体・精神障害領域の作業分析②				濱
11	身体・精神障害領域の作業分析③				濱
12	身体・精神障害領域の作業分析④				濱
13	身体・精神障害領域の作業分析⑤				濱
14	身体・精神障害領域の作業分析⑥				濱
15	まとめ				濱
教科書 及び 参考書	精神障害と作業療法 新版 三輪書店ひとと作業・作業活動 新版 三輪書店				
教授方法	講義・演習・実習・グループディスカッション				
教材	プリント資料等				
成績評価	100点満点中60点以上が合格点である。 森口55点(交流分析レポート課題25点、定期試験30点)、濱45点で評価する。				
備考					
当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。 交流分析プログラムはグループディスカッションを通して実施します。後日レポートを提出してもらいますので、体調管理に気をつけ欠席のないように注意してください。					

科目名	基礎作業学実習	単位数	2単位90時間	開講年次	1学年 前期
担当教員	坂東仁志(作業療法士として実務経験5年) 小林温子(作業療法士として実務経験5年) 菅村拓也(作業療法士として実務経験5年) 田村佳代(外部講師)				
科目概要	作業療法の様々な活動を治療手段として捉えるために、活動を経験する。 また、経験した活動を治療的に応用する基礎として一般的な作業分析を経験する。				
一般目標	活動を経験し、治療手段としての視点を養い、一般的作業分析を経験する。				
行動目標	活動の基本的手技を経験し、別の機会でも再現できる。 経験した活動について一般的作業分析を行うことができる。 経験した活動についてアダプテーション、段階付けを行うことができる。 活動時のリスク管理、物品管理、運営について経験し実行及び言語化できる。				
回数	講義内容		回数	講義内容	
1	オリエンテーション (坂東)		24	陶芸 (田村)	
2	切り絵 (坂東)		25	陶芸 (田村)	
3	切り絵 (坂東)		26	陶芸 (田村)	
4	切り絵 (坂東)		27	陶芸 (田村)	
5	切り絵 (坂東)		28	陶芸 (田村)	
6	革細工 (菅村)		29	陶芸 (田村)	
7	革細工 (菅村)		30	刺し子 (坂東)	
8	革細工 (菅村)		31	刺し子 (坂東)	
9	革細工 (菅村)		32	刺し子 (坂東)	
10	革細工 (菅村)		33	刺し子 (坂東)	
11	革細工 (菅村)		34	刺し子 (坂東)	
12	マクラメ (小林)		35	刺し子 (坂東)	
13	マクラメ (小林)		36	刺し子 (坂東)	
14	マクラメ (小林)		37	アンデルセン手芸 (坂東)	
15	マクラメ (小林)		38	アンデルセン手芸 (坂東)	
16	木工 (坂東)		39	アンデルセン手芸 (坂東)	
17	木工 (坂東)		40	アンデルセン手芸 (坂東)	
18	木工 (坂東)		41	アンデルセン手芸 (坂東)	
19	木工 (坂東)		42	アンデルセン手芸 (坂東)	
20	木工 (坂東)		43	調理計画 (菅村)	
21	木工 (坂東)		44	調理計画 (菅村)	
22	木工 (坂東)		45	調理計画 (菅村)	
23	木工 (坂東)				
教科書 及び 参考書	つくる・あそぶ作業活動実習マニュアル 第2版 医歯薬出版				
教授方法	講義・演習・実習・グループワーク				
教材	プリント				
成績評価	成績評価100点満点中60点以上が合格点である。意欲や授業態度も評価する。 100点満点で定期試験60点、作品課題30点、レポート課題10点の割合で評価する。 点数の内訳は坂東60点、菅村25点、小林15点で評価する。				
備考					
当該科目は実務経験のある教員等による授業科目である。 「調理計画」は講義時間に調理実習の計画を立案し、各自自宅にて調理を実施。その後レポートを提出する。					

科目名	身体機能評価学Ⅰ	単位数	1単位 30時間	開講年次	1学年 前期
担当教員	坂東仁志(作業療法士として実務経験5年)				
科目概要	身体障害に対する作業療法の運動器系機能評価の目的を理解し、適合する検査方法と結果の解釈の仕方について学ぶ。				
一般目標	身体障害分野の作業療法過程における運動器系機能評価の目的を理解する。 作業療法の評価に関する知識・技術・技能を習得する。				
行動目標	運動器系機能評価の目的を説明できる。 運動器系機能評価の検査方法を理解できる。 学生間で擬似的に役割分担をして検査の実施ができる。				
回数	講義内容				
1	オリエンテーション、評価学の基礎				
2	形態計測の基礎知識(講義)				
3	形態計測の測定方法 上肢(実技)				
4	形態計測の測定方法 下肢(実技)				
5	関節可動域測定のための基礎知識				
6	関節可動域の測定方法 肩甲帯の関節(講義・実技)				
7	関節可動域の測定方法 肩の関節(講義・実技)				
8	関節可動域の測定方法 肘・前腕の関節(講義・実技)				
9	関節可動域の測定方法 手・手指の関節(講義・実技)				
10	関節可動域の測定方法 股関節(講義・実技)				
11	関節可動域の測定方法 膝・足部の関節(講義・実技)				
12	関節可動域の測定方法 頸部の関節(講義・実技)				
13	関節可動域の測定方法 体幹の関節(講義・実技)				
14	実技テスト(ROM・形態計測)				
15	実技テスト(ROM・形態計測)				
教科書 及び 参考書	標準作業療法学 作業療法評価学 第4版(医学書院)				
教授方法	講義・実技演習				
教材	骨・筋標本等				
成績評価	成績評価100点満点中60点以上が合格点である。意欲や授業態度も評価する。 100点満点で実技試験30点、定期試験70点の割合で評価する。				
備考					
当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。					

科目名	身体機能評価学Ⅰ	単位数	1単位 30時間	開講年次	1学年 後期
担当教員	坂東仁志(作業療法士として実務経験5年)				
科目概要	身体障害に対する作業療法の運動器系機能評価の目的を理解し、適合する検査方法と結果の解釈のしかたとについて学ぶ。				
一般目標	身体障害分野の作業療法過程における運動器系機能評価の目的を理解する。 作業療法の評価に関する知識・技術・技能を習得する。				
行動目標	運動器系機能評価の目的を説明できる。 運動器系機能評価の検査方法を理解できる。 学生間で擬似的に役割分担をして検査の実施ができる。				
回数	講義内容				
1	筋力および徒手筋力検査とは(講義)				
2	筋力検査のための基礎知識と測定方法(講義・実技)				
3	徒手筋力検査法の基礎知識(講義)				
4	徒手筋力検査法の測定方法 肩甲帯・肩(講義・実技)				
5	徒手筋力検査法の測定方法 肩(講義・実技)				
6	徒手筋力検査法の測定方法 肩・肘(講義・実技)				
7	徒手筋力検査法の測定方法 前腕・手(講義・実技)				
8	徒手筋力検査法の測定方法 手指(講義・実技)				
9	徒手筋力検査法の測定方法 股(講義・実技)				
10	徒手筋力検査法の測定方法 股・膝(講義・実技)				
11	徒手筋力検査法の測定方法 足部・頸部(講義・実技)				
12	徒手筋力検査法の測定方法 頸部・体幹(講義・実技)				
13	徒手筋力検査法の測定方法 体幹(講義・実技)				
14	実技テスト				
15	実技テスト				
教科書 及び 参考書	標準作業療法学 作業療法評価学 第4版(医学書院) 新・徒手筋力検査法 第10版(協同医書出版社)				
教授方法	講義・演習				
教材	骨・筋標本等				
成績評価	成績評価100点満点中60点以上が合格点である。意欲や授業態度も評価する。 100点満点で実技試験30点、定期試験70点の割合で評価する。				
備考					
当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。					

科目名	身体機能評価学Ⅱ	単位数	2単位 60時間	開講年次	1学年 後期
担当教員	菅村拓也(作業療法士として実務経験5年)				
科目概要	身体障害に対する作業療法の神経系機能評価の目的を理解し、適合する検査方法と結果の解釈の仕方について学ぶ。また、様々な検査に係る解剖学等を併せて学ぶ。				
一般目標	身体障害分野の作業療法過程における神経系機能評価の目的を理解する。 作業療法の評価に関する知識・技術・技能を習得する。				
行動目標	神経系機能評価の目的を説明できる。 神経系機能評価の検査方法を理解できる。 学生間で疑似的に役割分担をして検査の実施ができる。				
回数	講義内容				
1	意識およびバイタルサインとは				
2	脈拍・血圧測定の方法				
3	脈拍・血圧測定の方法、呼吸について				
4	反射とは(経路や感覚受容器)①				
5	反射とは(経路や感覚受容器)②				
6	反射検査(腱反射)				
7	反射検査(表在反射・病的反射)				
8	バイタルサインと反射検査の復習				
9	感覚経路とその種類				
10	皮膚の脊髄分節と末梢神経の分布				
11	感覚検査(表在感覚)				
12	感覚検査(表在感覚・複合感覚)				
13	感覚検査(深部感覚・能動的触知覚)				
14	これまでの実技の復習				
15	実技試験①(バイタルサイン・反射検査・感覚検査)				
16	実技試験②(バイタルサイン・反射検査・感覚検査)				
17	実技試験のフィードバック				
18	筋緊張とは①				
19	筋緊張とは②				
20	筋緊張検査				
21	脳神経とは				
22	脳神経検査(第1脳神経～第6脳神経)				
23	脳神経検査(第7脳神経～第12脳神経)				
24	バイタルサインに係る解剖生理学の復習				
25	各反射に係る解剖生理学の復習				
26	感覚に係る解剖生理学の復習				
27	筋緊張に係る解剖生理学の復習				
28	脳神経に係る解剖生理学の復習				
29	まとめ				
30	試験のフィードバック				
教科書 及び 参考書	標準作業療法学 作業療法評価学 第4版(医学書院)				
教授方法	講義・実技演習				
教材	プリント等				
成績評価	成績評価100点満点中60点以上が合格点である。意欲や授業態度も評価する。 100点満点で定期試験70点、実技試験30点の割合で評価する。				
備考					
当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。					

科目名	精神機能評価学	単位数	1単位 30時間	開講年次	1学年 後期
担当教員	森口智恵美(作業療法士として実務経験5年)				
科目概要	精神機能の障害の捉えかたを理解し評価技術を学ぶ				
一般目標	精神障害を生じる代表的疾患に対する基本的な作業療法評価について学ぶ				
行動目標	精神機能を評価することの意味を説明できる 精神機能の障害のモデルを適切な用語を用いて説明できる				
回数	講 義 内 容				
1	科目オリエンテーション 精神機能とは				
2	精神機能の障害と特性				
3	精神科作業療法の手順				
4	精神障害に対する評価の具体的な内容と方法				
5	面接の方法 インテーク面接				
6	面接の方法 作業面接				
7	記録の書き方				
8	生活活動の評価 入院生活チェックリスト LASMI				
9	生活活動の評価 COPM				
10	生活活動の評価 COPM				
11	生活活動の評価 COPM				
12	生活活動の評価 COPM				
13	統合失調症 事例検討				
14	統合失調症 事例検討				
15	まとめ				
教科書 及び 参考書	精神障害と作業療法 新版 三輪書店				
教授方法	講義・演習・グループワーク				
教材	PowerPoint、授業プリント、DVD				
成績評価	100点満点中60点以上が合格点である。				
備考					
当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。					

科目名	生活環境論	単位数	1単位 30時間	開講年次	1学年 後期
担当教員	小林温子(作業療法士として実務経験5年) 菅村拓也(作業療法士として実務経験5年)				
科目概要	本講義は、第1学年後期履修の1単位(30時間)科目であり、講義と体験学習により構成されます。車椅子体験や障害者体験の実習を通じて、屋内外のアクセシビリティとバリアについて考える機会を持ち、障害者の生活環境について理解を深める。				
一般目標	建築構造の基礎知識と障害特性を配慮した住宅環境と、ユニバーサルデザインに基づいた誰もが住みやすい街づくりについて理解を深める。				
行動目標	車椅子体験を通して、誰もが住みやすい街づくりについて説明できる。 ユニバーサルデザインとバリアフリーの概念について説明できる。 基本的な住宅建築の構造について説明できる。 障害特性に応じた住宅環境について説明できる。				
回数	講 義 内 容				
1	生活環境の概念、日本における生活環境の特徴と課題			小林	
2	生活環境整備に関する法的制度			小林	
3	生活環境整備の基本①			小林	
4	生活環境整備の基本②			小林	
5	玄関・アプローチの環境整備			小林	
6	廊下・階段の環境整備			小林	
7	トイレの環境整備			小林	
8	建築の基礎と基本的な図面の読み方・書き方			小林	
9	生活環境整備の進め方			小林	
10	まちづくり～バリアフリー新法と郊外環境設備～			小林	
11	まちづくり～バリアフリー新法と郊外環境設備～			小林	
12	車椅子・障害者体験			小林・菅村	
13	車椅子・障害者体験			小林・菅村	
14	車椅子・障害体験のまとめ			小林・菅村	
15	車椅子・障害体験のまとめ			小林・菅村	
教科書 及び 参考書	教科書:生活環境学テキスト 改訂第2版(南江堂)				
教授方法	講義・体験学習(車椅子体験、障害者体験)				
教材	教科書・プリント・スライド				
成績評価	成績評価100点満点中60点以上が合格点である。100点満点で定期試験90点、体験学習課題10点の割合で評価する。				
備考					
当該科目は実務経験のある教員等による授業科目である。					

科目名	見学実習	単位数	2単位80時間	開講年次	1学年 後期
担当教員	森口智恵美(作業療法士として実務経験5年) 坂東仁志(作業療法士として実務経験5年) 小林温子(作業療法士として実務経験5年) 濱 敬介(作業療法士として実務経験6年) 菅村拓也(作業療法士として実務経験5年) 吉川瑞貴(作業療法士として実務経験5年)				
科目概要	各期の臨床実習期間は5日間を原則とし、2期・2施設の臨床実習を行う。なお、通所リハビリテーション、訪問リハビリテーションに該当する施設においては地域実習として40時間以上行う。				
一般目標	臨床実習指導者の指導・監督のもとで、典型的な障害特性を呈する対象者に対する作業療法を見学し、リハビリテーションチームにおける作業療法の役割を学ぶとともに、他部門との連携の必要性を理解し、医療従事者としての倫理観や基本的態度を身につける。				
行動目標	1. 基本的態度 1) 常識的態度：職業人としての常識的態度を身につける。 2) 責任ある行動：専門職としての責任ある行動を身につける。 3) 自己管理：自己管理ができる。 4) 意欲：意欲的に取り組む姿勢(探求心・創造性)を身につける。 2. 管理運営 1) 連携：他部門との連携の必要性について理解できる。 2) 施設理解：施設の特徴について理解できる。				
実 施 内 容					
1	実習前オリエンテーション				
2	施設別オリエンテーション				
3	見学実習 第1期				
4	実習後セミナー				
5	実習前オリエンテーション				
6	施設別オリエンテーション				
7	見学実習 第2期				
8	実習後セミナー				
教授方法	講義・臨床実習・グループディスカッション・発表				
成績評価	臨床実習指導者の意見を徴したうえで、学科長、及び専任教員が協議して行う。				
備考					

作業療法専門分野 2 学年

科目名	作業療法管理学Ⅰ	単位数	1単位	30時間	開講年次	2学年 後期
担当教員	濱 敬介(作業療法士として実務経験6年)					
科目概要	本講義では、リハビリテーション部門（作業療法部門）の組織体系について理解するとともに、作業療法士を取り巻く社会制度や実際の管理、運営方法について学習する。					
一般目標	組織における作業療法部門の位置づけと役割について理解することができる。					
行動目標	作業療法部門の管理・運営について説明できる。 医療機関の中における作業療法部門の役割を理解できる。 管理・運営に関する法律・制度について理解できる。 リスクマネジメントにおける予防や対応方法を理解できる。					
回数	講 義 内 容					
1	作業療法部門におけるマネジメントとマネジメントのプロセス・組織と作業療法士の役割					
2	情報のマネジメント: 守秘義務・個人情報・診療記録					
3	作業療法と医療サービス					
4	医療安全: 作業療法士におけるリスクマネジメント					
5	作業療法管理業務①: 新人教育と人材育成・情報のマネジメント					
6	作業療法管理業務②: 地域・行政機関における作業療法士のマネジメント					
7	作業療法士の職域: 法律と定義・作業療法士の職業倫理					
8	作業療法に関わる諸制度: 社会保障制度・医療保険制度・介護保険制度					
9	作業療法に関わる諸制度: 地域包括ケアシステム・介護予防・就労支援・障害者スポーツ					
10	作業療法教育・作業療法臨床実習					
11	作業療法士のキャリア開発					
12	他職種連携事例検討会 準備					
13	他職種連携 事例検討会					
14	他職種連携 事例検討会					
15	他職種連携 事例検討会					
教科書 及び 参考書	作業療法管理学 第3版(医歯薬出版株式会社)					
教授方法	講義・演習・実習					
教材	適宜プリント資料を配布する					
成績評価	定期試験100点満点中60点以上が合格点である。					
備考						
当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。						

科目名	身体機能評価学Ⅲ	単位数	1単位	30時間	開講年次	2学年	前期
担当教員	坂東仁志(作業療法士として実務経験5年)						
科目概要	作業療法における各種検査等の目的を理解し、適合する実施方法と結果の解釈の仕方について学ぶ。						
一般目標	作業療法過程における各種検査の目的を理解する。 触診法について学び、人体構造の理解を深める。 作業療法の評価に関する知識・技術・技能を習得する。						
行動目標	各種検査法の目的を説明できる。 各種検査法の実施方法を理解できる。 学生間で擬似的に役割分担をして触診・検査の実施ができる。						
回数	講 義 内 容						
1	触診法の基礎、上肢の触診 骨						
2	上肢の触診 靱帯						
3	上肢の触診 筋						
4	下肢の触診 骨						
5	下肢の触診 靱帯						
6	下肢の触診 筋						
7	上肢機能検査法（講義）						
8	上肢機能検査法（実技）						
9	協調性検査（講義・実技）						
10	バランス検査（講義・実技）						
11	摂食・嚥下機能評価						
12	摂食・嚥下機能評価						
13	排泄機能評価						
14	排泄機能評価						
15	まとめ						
教科書 及び 参考書	運動療法のための機能解剖学的触診技術動画プラス 上肢(メジカルビュー社) 運動療法のための機能解剖学的触診技術動画プラス 下肢・体幹(メジカルビュー社) 標準作業療法学 作業療法評価学 第4版(医学書院)						
教授方法	講義・演習・実習						
教材	骨・筋標本等						
成績評価	定期試験100点満点中60点以上が合格点である。意欲や授業態度も評価する。						
備考							
当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。							

科目名	精神機能評価学Ⅱ	単位数	1単位 30時間	開講年次	2学年 前期
担当教員	森口智恵美(作業療法士として実務経験5年)				
科目概要	精神科作業療法における評価を学ぶ				
一般目標	精神障害を生じる代表的疾患に対する基本的な作業療法評価について学ぶ				
行動目標	精神科作業療法評価プロセスを説明できる 精神機能評価の目的と方法を説明できる 精神機能評価を記録することができる ケース検討にて評価計画及び課題を抽出することができる				
回数	講 義 内 容				
1	精神科作業療法の手順				
2	精神障害に対する評価の具体的な内容と方法				
3	面接の方法 インテーク面接				
4	面接の方法 作業面接				
5	記録の書き方				
6	生活活動の評価 入院生活チェックリスト LASMI				
7	生活活動の評価 COPM				
8	生活活動の評価 COPM				
9	生活活動の評価 COPM				
10	生活活動の評価 COPM				
11	統合失調症 事例検討				
12	統合失調症 事例検討				
13	統合失調症 事例検討				
14	統合失調症 事例検討				
15	まとめ				
教科書 及び 参考書	精神障害と作業療法 新版 三輪書店				
教授方法	講義・演習・グループワーク				
教材	PowerPoint、授業プリント、DVD				
成績評価	定期試験100点満点中60点以上が合格点である。				
備考					
当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。					

科目名	生活機能評価学	単位数	1単位 30時間	開講年次	2学年 前期
担当教員	小林温子(作業療法士として実務経験5年)				
科目概要	作業療法における「生活」の意義や視点、生活動作の構成要素について学習する作業療法対象者の生活を評価するための評価技術を習得する				
一般目標	日常生活活動の概念を理解し、作業療法における評価の観点を習得する。				
行動目標	作業療法における生活の概念と構造について説明できる。 活動を構成する身体、心理、認知、環境等の要素について分析し説明できる。 評価対象者の動作一連を文章で表現することができる。 必要に応じた評価様式を用いて評価を実施することができる。				
回数	講 義 内 容				
1	日常生活活動の概念と分類、生活の分析とは				
2	姿勢と基本動作の種類				
3	小テスト、姿勢と基本動作の特徴				
4	セルフケアの構成要素分析				
5	セルフケアの構成要素分析(演習①)				
6	セルフケアの構成要素分析(演習②)				
7	ADL評価の実施方法について、BADLの評価とIADLの評価				
8	評価技法:Barthel Index				
9	評価技法:FIM				
10	評価技法:FIM				
11	Barthel IndexとFIMの演習				
12	FIMの演習				
13	セルフケア動作分析のポイントについて				
14	事例検討				
15	まとめ				
教科書 及び 参考書	教科書①:「PT・OTビジュアルテキスト ADL」 羊土社 教科書②:「PT・OTビジュアルテキスト 姿勢動作・歩行分析」 羊土社				
教授方法	講義、演習、グループディスカッション				
教材	教科書、プリント資料、視覚教材等				
成績評価	成績評価100点満点中60点以上が合格点である。100点満点で小テスト10点、定期試験90点の割合で評価する。				
備考					
当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。本科目で学習する生活機能評価学は、障害別生活活動支援論(前期)講義において、実技や演習を経験して学習を深めていく。					

科目名	身体機能治療学 I	単位数	1単位	30時間	開講年次	2学年	前期
担当教員	菅村拓也(作業療法士として実務経験5年)						
科目概要	本講義は、前期後期の通年科目で、60時間の履修を必要とする。 講義や演習、実習により構成される。 脳血管障害を中心に評価法(画像評価を含む)・治療法を中心に学ぶ。						
一般目標	疾患ごとに理解を深め、作業療法に必要な評価項目の選択、リスク管理、治療目標、治療計画を立案することができる。						
行動目標	身体機能作業療法の概要について説明することができる。 対象者に応じた評価・治療プロセスの概要を説明することができる。 病期・実施場所に応じた治療・指導・援助の概要を説明することができる。						
回数	講 義 内 容						
1	脳血管障害の概要:種類と特性						
2	脳血管障害の画像所見(CT・MRIなど)の見かた						
3	脳血管障害の病態と回復過程(急性期)						
4	脳血管障害急性期のリスク管理および評価						
5	脳血管障害急性期の治療						
6	脳血管障害の病態と回復過程(回復期)						
7	脳血管障害回復期の評価						
8	脳血管障害回復期の評価						
9	脳血管障害回復期の治療						
10	脳血管障害回復期の治療						
11	脳血管障害の病態と回復過程(生活期)						
12	脳血管障害生活期の評価						
13	脳血管障害生活期の治療						
14	ケーススタディ　：　評価項目の立案、問題点の抽出						
15	ケーススタディ　：　治療プログラムの立案						
教科書 及び 参考書	標準作業療法学　作業療法評価学　第4版（医学書院） 標準作業療法学　身体機能作業療法学　第4版（医学書院） 病気がみえるvol.7　脳・神経　第2版　（メディックメディア） リハ実践テクニック　脳卒中　第4版（メヂカルビュー） PT・OT　基礎から学ぶ画像の読み方　第3版　医歯薬出版株式会社						
教授方法	スライド講義、グループワーク						
教材	適宜プリント資料を配布する						
成績評価	定期試験100点満点中60点以上が合格点である。意欲や授業態度も評価する。						
備考							
当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。							

科目名	身体機能治療学Ⅰ	単位数	1単位 30時間	開講年次	2学年 後期
担当教員	坂東仁志(作業療法士として実務経験5年)				
科目概要	本講義は、前期後期の通年科目で、60時間の履修を必要とする。 講義や演習により構成される。				
一般目標	疾患ごとに理解を深め、作業療法に必要な評価項目の選択、リスク管理、治療目標、治療計画を立案することができる。				
行動目標	各疾患について概要を説明することができる。 対象者に応じた評価・治療プロセスの概要を説明することができる。 病期・実施場所に応じた治療・指導・援助の概要を説明することができる。				
回数	講 義 内 容				
1	Parkinson病に対する症状理解と作業療法評価				
2	Parkinson病に対する作業療法評価				
3	Parkinson病に対する作業療法について①				
4	Parkinson病に対する作業療法について②				
5	脊髄小脳変性症に対する症状理解と作業療法評価				
6	脊髄小脳変性症に対する作業療法評価				
7	脊髄小脳変性症に対する作業療法について①				
8	脊髄小脳変性症に対する作業療法について②				
9	筋萎縮性側索硬化症に対する症状理解と作業療法評価				
10	筋萎縮性側索硬化症に対する作業療法評価				
11	筋萎縮性側索硬化症に対する作業療法について①				
12	筋萎縮性側索硬化症に対する作業療法について②				
13	神経・筋疾患(多発性硬化症)に対する作業療法				
14	神経・筋疾患(ギランバレー症候群)に対する作業療法				
15	神経・筋疾患(重症筋無力症)に対する作業療法				
教科書 及び 参考書	標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第4版(医学書院) 標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学 第4版(医学書院) 病気がみえるvol.7 脳・神経 第2版(メディックケア)				
教授方法	講義・演習				
教材	プリント等				
成績評価	定期試験100点満点中60点以上が合格点である。意欲や授業態度も評価する。				
備考					
当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。					

科目名	身体機能治療学Ⅱ	単位数	1単位 30時間	開講年次	2学年 前期
担当教員	菅村拓也(作業療法士として実務経験5年)				
科目概要	本講義は、前期後期の通年科目で、60時間の履修を必要とする。 講義や演習により構成される。				
一般目標	疾患の疾患特性を説明できる。 各疾患に対する作業療法の実践において適切な評価を説明、選択できる。 各疾患に対する作業療法の実践において必要な治療目標・治療計画を立案することができる。				
行動目標	疾患と病期に応じた評価を選択できる。 治療理論及び根拠に基づき、治療すべき優先順位を説明できる。 演習を通じて治療計画を立案できる。				
回数	講 義 内 容				
1	下肢骨折に対する作業療法				
2	下肢骨折に対する作業療法				
3	脊椎圧迫骨折に対する作業療法				
4	脊椎圧迫骨折に対する作業療法				
5	関節リウマチの病態・症状と評価				
6	関節リウマチに対する作業療法の展開				
7	関節リウマチに対する作業療法の展開				
8	呼吸器疾患に対する作業療法				
9	呼吸器疾患に対する作業療法				
10	循環器疾患に対する作業療法				
11	循環器疾患に対する作業療法				
12	代謝疾患に対する作業療法				
13	代謝疾患に対する作業療法				
14	悪性腫瘍に対する作業療法				
15	悪性腫瘍に対する作業療法				
教科書 及び 参考書	標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第4版(医学書院) 標準作業療法学 身体機能作業療法学 第4版(医学書院)				
教授方法	講義・演習				
教材	スライド・プリント資料他				
成績評価	定期試験100点満点中60点以上が合格点である。意欲や授業態度も評価する。				
備考					
当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。					

科目名	身体機能治療学Ⅱ	単位数	1単位 30時間	開講年次	2学年 後期
担当教員	濱 敬介(作業療法士として実務経験6年) 菅村拓也(作業療法士として実務経験5年)				
科目概要	本科目は前後期の通年科目であり、講義と演習により構成される。脊髄損傷、骨折などの整形外科疾患を中心に実践的なアプローチを学び、作業療法評価(画像評価を含む)と基本的治療アプローチ、リスク管理等について理解を深める。				
一般目標	疾患の疾患特性を説明できる。 各疾患に対する作業療法の実践において適切な評価を説明、選択できる。 各疾患に対する作業療法の実践において必要な治療目標・治療計画を立案することができる。				
行動目標	疾患と病期に応じた評価を選択できる。 治療理論及び根拠に基づき、治療すべき優先順位を説明できる。 演習を通じて治療計画を立案できる。				
回数	講 義 内 容				
1	SCI総論				濱
2	SCIの病態理解と評価				濱
3	SCIの病態理解と評価				濱
4	SCIのADL				濱
5	SCIのADL				濱
6	SCIに対する作業療法				濱
7	SCIに対する作業療法				濱
8	上肢骨折等に対するハンドセラピーの展開				菅村
9	上肢骨折等に対するハンドセラピーの展開				菅村
10	腱損傷に対する病態理解と作業療法の展開				菅村
11	末梢神経損傷・腕神経叢損傷に対する作業療法				菅村
12	末梢神経損傷・腕神経叢損傷に対する作業療法				菅村
13	熱傷に対する作業療法				菅村
14	熱傷に対する作業療法				菅村
15	腰痛症に対する作業療法				菅村
教科書 及び 参考書	標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第4版(医学書院) 標準作業療法学 身体機能作業療法学 第4版(医学書院) 病気がみえるvol.7 脳・神経 第2版(メディックケア)				
教授方法	講義・演習				
教材	スライド・プリント資料他				
成績評価	成績評価100点満点中60点以上が合格点である。 100点満点で定期試験100点の割合で評価する。 定期試験の内訳は濱50点、菅村50点で評価する。				
備考					
当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。					

科目名	老年期作業治療学	単位数	1単位 30時間	開講年次	2学年 前期
担当教員	小林温子(作業療法士として実務経験5年)				
科目概要	老年期障害分野における作業療法の評価・治療について学ぶ。				
一般目標	老年期障害の作業療法実践に関する知識・技術を習得する。				
行動目標	老年期における障害学を学び、作業療法の役割・機能を理解する。 老年期対象者に必要な評価項目を選択し実施することができる。 評価結果から対象者の全体像を把握することができる。				
回数	講義内容				
1	高齢者を取り巻く社会制度、老年期の作業療法とは				
2	高齢者の心身の加齢的变化、複合障害、廃用症候群				
3	老年症候群、高齢者に多い徴候や疾患				
4	認知症と軽度認知障害の概念				
5	認知症の症状理解、認知症の分類とその特徴①				
6	認知症の症状理解、認知症の分類とその特徴②				
7	認知症の症状理解、認知症の分類とその特徴③				
8	認知症の作業療法とは				
9	認知症の評価(概要、認知機能評価の種類)				
10	認知症の評価(演習:HDS-R・MMSE)				
11	認知症の評価(演習:NMスケール、N-ADL、その他)				
12	認知症に対する関わり方(視覚教材学習)				
13	コミュニケーション技法について、行動観察のポイントについて				
14	事例検討、介護保険制度の概要				
15	老年期作業療法の評価の流れ、まとめ				
教科書 及び 参考書	教科書①:「標準作業療法学 高齢期作業療法学 第4版」医学書院 教科書②:「認知症のある人の生活と作業療法 第3版」三輪書店				
教授方法	講義、演習				
教材	教科書、プリント資料、視覚教材等				
成績評価	定期試験100点満点中60点以上が合格点である。				
備考					
当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。					

科目名	老年期作業治療学	単位数	1単位 30時間	開講年次	2学年 後期
担当教員	小林温子(作業療法士として実務経験5年)				
科目概要	老年期障害分野における作業療法の評価・治療について学ぶ。				
一般目標	老年期障害の作業療法実践に関する知識・技術を習得する。				
行動目標	対象者に応じた治療的レクリエーションを企画・実施することができる。 老年期障害学の知識を深め、評価を立案し実施することができる。 評価結果から対象者の全体像を把握し、治療プログラムを立案することができる。				
回数	講義内容				
1	高齢期作業療法の実践における人権と尊厳・実践課程				
2	病期に応じた治療・援助内容の違い				
3	実施場所に応じた治療援助の違い				
4	一般高齢者の作業療法、介護予防の作業療法				
5	評価技術(GDS15、老研式活動能力指標ほか)				
6	事例検討				
7	レクリエーションの治療的意義				
8	レクリエーションの治療的意義				
9	レクリエーション技法(回想法・RO法・その他)				
10	レクリエーション技法(企画書・報告書の作成について)				
11	レクリエーション技法(レクリエーション企画書作成実習)				
12	レクリエーション技法(レクリエーション企画書作成実習)				
13	レクリエーション技法(レクリエーション企画書作成実習)				
14	企画書発表・レク体験・ディスカッション				
15	企画書発表・レク体験・ディスカッション				
教科書 及び 参考書	教科書①:「標準作業療法学 高齢期作業療法学 第4版」 医学書院 教科書②:「レクリエーション 改訂第3版」 三輪書店				
教授方法	講義、グループ課題、レクリエーション実習など				
教材	教科書、プリント資料等				
成績評価	定期試験100点満点中60点以上が合格点である。				
備考					
当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。					

科目名	精神機能治療学	単位数	1単位 30時間	開講年次	2学年 前期
担当教員	森口智恵美(作業療法士として実務経験5年)				
科目概要	精神障害者を取り巻く社会情勢を学修する 精神科作業療法士に必要な知識技術を学修する				
一般目標	精神障害を生じる代表的疾患に対する基本的な作業療法について理解する				
行動目標	精神保健福祉の動向と作業療法の役割を説明することができる 精神科作業療法の基本的視点と回復段階に応じた関わりと方法を説明できる 精神科作業療法で主に関わる疾患に対する基本的な対応の仕方を説明できる				
回数	講 義 内 容				
1	精神保健医療福祉の動向と作業療法の役割				
2	精神保健医療福祉の動向と作業療法の役割				
3	精神保健医療福祉の動向と作業療法の役割				
4	作業療法実践の基本的視点				
5	作業療法実践の基本的視点				
6	作業療法実践の基本的視点				
7	急性期作業療法の考え方と実際				
8	急性期作業療法の考え方と実際				
9	急性期作業療法の考え方と実際				
10	急性期作業療法の考え方と実際				
11	統合失調症スペクトラムと作業療法				
12	統合失調症スペクトラムと作業療法				
13	統合失調症スペクトラムと作業療法				
14	統合失調症スペクトラムと作業療法				
15	まとめ				
教科書 及び 参考書	教科書 精神障害と作業療法 新版 三輪書店 参考書 生活を支援する精神障害作業療法 第2版 医歯薬出版株式会社 参考書 現代臨床精神医学 改定第12版 金原出版株式会社				
教授方法	講義・演習・グループワーク				
教材	PowerPoint、授業プリント、DVD				
成績評価	定期試験100点満点中60点以上が合格点である。				
備考					
当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。					

科目名	精神機能治療学	単位数	1単位 30時間	開講年次	2学年 後期
担当教員	森口智恵美(作業療法士として実務経験5年)				
科目概要	精神科領域における作業療法を疾患別に学ぶ 精神科における退院支援から地域生活支援について学ぶ				
一般目標	精神障害を生じる代表的疾患に対する基本的な作業療法について理解する				
行動目標	精神科作業療法における治療構造が説明できる 精神科作業療法で主に関わる疾患に対する基本的な対応の仕方を説明できる 精神科作業療法士が退院支援から地域生活支援で果たせる役割やあり方を説明できる				
回数	講 義 内 容				
1	作業を用いる療法の特性				
2	作業を用いる療法の特性				
3	作業療法の治療・支援機構と治療機序				
4	作業療法の治療・支援機構と治療機序				
5	作業療法の治療・支援機構と治療機序				
6	作業療法の治療・支援機構と治療機序				
7	作業療法の治療・支援機構と治療機序				
8	作業療法の治療・支援機構と治療機序				
9	作業療法の治療・支援機構と治療機序				
10	十全ユリノキ病院 精神科デイケア利用者との交流会				
11	気分障害と作業療法				
12	気分障害と作業療法				
13	アディクションと作業療法				
14	アディクションと作業療法				
15	まとめ				
教科書 及び 参考書	教科書 精神障害と作業療法 新版 三輪書店 参考書 生活を支援する精神障害作業療法 第2版 医歯薬出版株式会社 参考書 現代臨床精神医学 改定第12版 金原出版株式会社				
教授方法	講義・演習・グループワーク				
教材	PowerPoint、授業プリント、DVD				
成績評価	100点満点中60点以上が合格点である。 提出物5点、定期試験95点で評価する。				
備考					
当該科目は実務経験のある教員等による授業科目である。					

科目名	発達機能治療学	単位数	1単位 30時間	開講年次	2学年 前期
担当教員	森口智恵美(作業療法士として実務経験5年)				
科目概要	正常発達および発達検査を学修する 発達障害の障害像、作業療法評価と治療について学修する				
一般目標	発達障害を生じる代表的疾患に対する基本的な作業療法について理解する				
行動目標	正常発達について、姿勢・運動、認知、心理・社会的側面より理解することができる 発達検査の種類と目的を説明することができる 発達障害に対する作業療法を説明することができる				
回数	講 義 内 容				
1	原始反射①				
2	原始反射②				
3	立ち直り反応				
4	平衡反応				
5	正常運動発達				
6	認知機能の発達				
7	発達検査(遠城寺式乳幼児分析的発達検査)				
8	発達検査(デンバー式発達スクリーニング検査)①				
9	発達検査(デンバー式発達スクリーニング検査)②				
10	遊びの発達				
11	自閉症スペクトラムに対する評価と治療 講義・実技				
12	自閉症スペクトラムに対する評価と治療 講義・実技				
13	注意欠陥・多動性障害に対する評価と治療 講義・実技				
14	注意欠陥・多動性障害に対する評価と治療 講義・実技				
15	まとめ				
教科書 及び 参考書	参考書① イラストでわかる発達障害の作業療法 医歯薬出版株式会社 参考書② 標準作業療法学 発達過程作業療法学 第2版 医学書院				
教授方法	講義・演習・グループディスカッション				
教材	PowerPoint、プリント、動画				
成績評価	成績評価100点満点中60点以上が合格点である。 提出課題5点、小テスト10点、定期試験85点で評価する。				
備考					
当該科目は実務経験のある教員等による授業科目である。					

科目名	発達機能治療学	単位数	1単位 30時間	開講年次	2学年 後期
担当教員	小林温子(作業療法士として実務経験5年)				
科目概要	保育所実習を通して定型発達を学修する。 発達障害分野(運動器系)における対象疾患の障害像、作業療法評価と治療について学修する。				
一般目標	発達障害を生じる代表的疾患に対する基本的な作業療法について理解する				
行動目標	保育所実習において年齢に応じた遊びを提供し楽しませることができる。 定型発達について遠城寺、デンバーなどの根拠を用いて理解することができる。 発達障害分野(運動器系)に対する作業療法を説明することができる				
回数	講 義 内 容				
1	保育所実習遊びの計画				小林
2	保育所実習遊びの計画				小林
3	保育所実習遊びの計画				小林
4	保育所実習遊びの計画				小林
5	保育所実習遊びのリハーサル				小林
6	保育所実習				みかん保育園
7	保育所実習				みかん保育園
8	保育所実習				みかん保育園
9	保育所実習				みかん保育園
10	デュシェンヌ型筋ジストロフィーに対する評価と治療①				小林
11	デュシェンヌ型筋ジストロフィーに対する評価と治療②				小林
12	デュシェンヌ型筋ジストロフィーに対する評価と治療③				小林
13	CPに対する評価と治療①				小林
14	CPに対する評価と治療②				小林
15	CPに対する評価と治療③				小林
教科書 及び 参考書	参考書① イラストでわかる発達障害の作業療法 医歯薬出版株式会社 参考書② 標準作業療法学 発達過程作業療法学 第2版 医学書院				
教授方法	講義・演習・グループディスカッション				
教材	プリント				
成績評価	100点満点中60点以上が合格点である。 保育所実習レポート課題20点、定期試験80点				
備考					
当該科目は実務経験のある教員等による授業科目である。 2班に分かれて勝浦みかん保育園の協力のもと保育所実習を行う。					

科目名	高次脳機能治療学	単位数	1単位 30時間	開講年次	2学年 前期
担当教員	濱 敬介(作業療法士として実務経験6年)				
科目概要	高次脳機能障害に対する評価（画像評価を含む）・治療・援助の実践過程について学ぶ				
一般目標	高次機能障害の症状を理解し、評価・治療アプローチについて学習する				
行動目標	高次脳機能障害の機能障害別特性について説明することができる 機能障害別に適切な評価法を選択し、実施することができる 治療と援助の理論と原則について説明できる 機能障害別に治療計画を立案することができる				
回数	講 義 内 容				
1	評価の組み立て・観察の方法・神経心理学的検査の使い方				
2	脳の機能解剖および画像評価				
3	評価のまとめ・介入に繋げる解釈および治療と援助の理論と原則について				
4	各機能障害の症状と評価・アプローチ（注意障害）				
5	各機能障害の症状と評価・アプローチ（半側無視）				
6	各機能障害の症状と評価・アプローチ（視覚失認）				
7	各機能障害の症状と評価・アプローチ（頭部外傷）				
8	各機能障害の症状と評価・アプローチ（前頭葉障害）				
9	各機能障害の症状と評価・アプローチ（遂行機能障害）				
10	各機能障害の症状と評価・アプローチ（行動と感情の障害）				
11	各機能障害の症状と評価・アプローチ（記憶障害）				
12	各機能障害の症状と評価・アプローチ（失語症）				
13	各機能障害の症状と評価・アプローチ（失行症）				
14	事例検討				
15	まとめ				
教科書 及び 参考書	高次脳機能障害のリハビリテーション(第3版) 医学書院 PT・OT 基礎から学ぶ画像の読み方 第4版 医歯薬出版株式会社 高次脳機能障害マエストロシリーズ3・4 医歯薬出版(参考書) 高次脳機能障害学 第2版 医歯薬出版株式会社(参考書)				
教授方法	スライド講義、グループワーク				
教材	適宜プリント資料を配布する				
成績評価	定期試験100点満点中60点以上が合格点である。				
備考					
当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。					

科目名	障害別生活活動支援論	単位数	1単位 30時間	開講年次	2学年 前期
担当教員	小林温子(作業療法士として実務経験5年)				
科目概要	前後期履修の2単位科目。講義と演習を通して各種疾患の日常生活活動への影響を理解し、作業療法評価および治療・援助的介入について手法を学習する。 障害別に応じた起居・移乗動作パターンを学習し、福祉用具や生活環境の工夫などの自立支援および介護負担軽減の手技についても学習する。				
一般目標	主に中枢神経系疾患の日常生活活動支援について理解を深める。				
行動目標	障害種別・程度に合わせた日常生活活動の動作特性と諸問題について理解する。 障害種別・程度に合わせた日常生活活動の評価について理解する。 障害種別・程度に合わせた起居・移乗動作の動作パターンと介助方法について理解し説明・実演することができる。				
回数	講 義 内 容				
1	立位姿勢観察のポイント、歩行の観察ポイント				
2	正常歩行と異常歩行とは				
3	正常歩行の重心移動の運動学的要素について				
4	移動の障害別特徴、移動介助のパターンと方法(演習)				
5	臥位姿勢と寝返りの分析(基本的要素と片麻痺・四肢麻痺の障害像)				
6	寝返りから起き上がりの分析(基本的要素と片麻痺・四肢麻痺の障害像)				
7	座位姿勢と立ち上がりの分析(基本的要素と片麻痺・四肢麻痺の障害像)				
8	臥位からの起居動作(演習)				
9	移乗動作の種類と方法(演習)				
10	起居・移乗動作の方法(演習)				
11	動作分析の表現方法:起居動作、移乗動作				
12	動作分析の表現方法:セルフケア				
13	動作分析の表現方法:演習				
14	事例検討				
15	まとめ				
教科書 及び 参考書	教科書①:「PT・OTビジュアルテキスト ADL 第2版」 羊土社 教科書②:「PT・OTビジュアルテキスト 姿勢動作・歩行分析 改訂第2版」 羊土社				
教授方法	講義・演習・実習				
教材	教科書、配布資料、視覚教材				
成績評価	定期試験100点満点中60点以上が合格点である。				
備考					
当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。					

科目名	障害別生活活動支援論	単位数	1単位 30時間	開講年次	2学年 後期
担当教員	小林温子(作業療法士として実務経験5年)				
科目概要	前後期履修の2単位科目。講義と演習を通して各種疾患の日常生活活動への影響を理解し、作業療法評価および治療・援助的介入について手法を学習する。 障害別に応じた起居・移乗動作パターンを学習し、福祉用具や生活環境の工夫などの自立支援および介護負担軽減の手技についても学習する。				
一般目標	身体障害各疾患における障害像をもとに日常生活の支援について理解する。				
行動目標	各疾患の障害によって引き起こされる生活障害を理解する。 各疾患の障害像に対する生活支援・訓練の手法について学習する。 事例の評価結果より課題と問題点を列挙し、生活支援の方法について検討できる。				
回数	講義内容				
1	脳卒中片麻痺の動作別に見た生活支援の実際				
2	脳卒中片麻痺の動作別に見た生活支援の実際				
3	脳卒中片麻痺の動作別に見た生活支援の実際				
4	脳卒中片麻痺の動作別に見た生活支援の実際				
5	脊髄損傷の動作別に見た生活支援の実際				
6	脊髄損傷の動作別に見た生活支援の実際				
7	Parkinson病の動作別に見た生活支援の実際				
8	デュシェンヌ型筋ジストロフィーの動作別に見た生活支援の実際				
9	脳性麻痺の動作別に見た生活支援の実際				
10	脳性麻痺の動作別に見た生活支援の実際				
11	発達障害に対する生活支援の実際				
12	シーティングとポジショニングの基本的理解				
13	シーティングの評価(姿勢と体圧分散)				
14	シーティング適合技術(用具の理解)				
15	シーティング・ポジショニングの演習				
教科書 及び 参考書	教科書:「PT・OTビジュアルテキスト ADL 第2版」 羊土社				
教授方法	講義・演習・実習				
教材	教科書、配布資料、視覚教材(シーティング座圧分布計など)				
成績評価	定期試験100点満点中60点以上が合格点である。 定期試験100点(内訳:小林80点、吉川20点)で評価する。				
備考					
当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。					

科目名	作業療法臨床技術論	単位数	2単位 60時間	開講年次	2学年 後期
担当教員	菅村拓也(作業療法士として実務経験5年) 坂東仁志(作業療法士として実務経験5年)				
科目概要	各疾患や障害の治療に共通した基本的なアプローチ法について学習する。 機能代償の手段としての上肢スプリントの適合疾患、製作方法を学び、製作課題に取り組む。				
一般目標	作業療法における基礎的治療技術の目的と実施方法について理解する。 上肢スプリントをはじめとする代償方法の目的や適合技術を理解する。 課題により製作技法を習得し、技能の向上を図る。				
行動目標	関節可動域訓練や筋力増強訓練などの基本的なアプローチ法について理解し説明、実践することができる。 スプリント療法の適合や目的、スプリント作製の知識や技術を習得し、説明することができる。				
回数	講 義 内 容				
1	身体機能作業療法の目的と方法、対象				坂東
2	作業療法のプロセスとボディメカニクス				坂東
3	運動制御理論と運動学習				坂東
4	関節可動域の維持・拡大-可動域制限の分類と機序-				坂東
5	関節可動域の維持・拡大-評価・治療のための基礎知識-				坂東
6	関節可動域の維持・拡大-治療手技と作業療法への関連 上肢-				坂東
7	関節可動域の維持・拡大-治療手技と作業療法への関連 下肢-				坂東
8	筋力と筋持久力の維持・増強-筋力・筋持久力低下の要因と原因-				坂東
9	筋力と筋持久力の維持・増強-評価・治療のための基礎知識-				坂東
10	筋力と筋持久力の維持・増強-治療手技と作業療法への関連-				坂東
11	筋緊張異常とその治療				坂東
12	筋緊張異常とその治療				坂東
13	不随意運動とその治療				坂東
14	物理療法の基礎				坂東
15	感覚知覚再教育について～概説・評価・訓練の目標～				菅村
16	感覚知覚再教育について～末梢神経損傷に対する訓練～				菅村
17	感覚知覚再教育について～中枢神経障害に対する訓練～				菅村
18	協調運動障害とその治療について				菅村
19	廃用症候群への対応				菅村
20	スプリント作製のための基礎知識				菅村
21	スプリント作製の基本技術①				菅村
22	スプリント作製の基本技術②-型紙の作り方-				菅村
23	リングスプリント製作実習				菅村
24	リングスプリント製作実習				菅村
25	コックアップスプリント製作実習①				菅村
26	コックアップスプリント製作実習②				菅村
27	コックアップスプリント製作実習③				菅村
28	コックアップスプリント製作実習④				菅村
29	コックアップスプリント適合判定とまとめ				菅村
30	まとめ				坂東
教科書 及び 参考書	標準作業療法学 身体機能作業療法学 第4版(医学書院) 熱可塑性スプリント作製マニュアル(三輪書店)				
教授方法	講義・実習				
教材	プリント等				
成績評価	成績評価100点満点中60点以上が合格点である。意欲や授業態度も評価する。 100点満点で定期試験80点、スプリント作製課題20点の割合で評価する。 定期試験の内訳は坂東50点、菅村30点で評価する。				
備考					
当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。 スプリントの製作実習においては、身体機能治療学Ⅱの学習内容と合わせて学習することが望まれる。製作実習では、製作したスプリントが後期試験に配点される。					

科目名	義肢装具学	単位数	1単位 30時間	開講年次	2学年 後期
担当教員	濱 敬介(作業療法士として実務経験6年)				
科目概要	装具（スプリントを除く）の概要や代償的アプローチについて学ぶ				
一般目標	装具の構造・機能・適応について学習する				
行動目標	装具の構造や機能について説明できる 装具のチェックアウトについて説明できる 代表的疾患と装具の適応について説明できる				
回数	講 義 内 容				
1	補装具給付制度の概要				
2	装具総論 装具の分類・名称・基本構造				
3	上肢装具 ①腱板損傷・脳卒中片麻痺(アームスリング・三角巾等)				
4	上肢装具 ②BFO・サスペンションスリング等				
5	下肢装具 ①下肢の運動学(正常歩行と異常歩行				
6	下肢装具 ②代表的な下肢装具				
7	下肢装具 ③脳卒中片麻痺における下肢装具				
8	体幹装具 ①代表的な体幹装具				
9	体幹装具 ②脊椎疾患と体幹装具				
10	義肢総論 切断者の現況				
11	義肢各論 切断と離断・上肢切断と機能的特徴				
12	切断術前のケア・切断術後の断端ケア(弾性包帯の装着)				
13	肩義手・上腕義手とチェックアウト				
14	前腕義手とチェックアウト				
15	筋電義手				
教科書 及び 参考書	義肢・装具のチェックポイント 第9版 医学書院 義肢装具学 医学書院（参考書） 装具治療マニュアル 医歯薬出版（参考書） 基礎運動学 第7版補訂 医歯薬出版（参考書）				
教授方法	スライド講義、グループワーク				
教材	適宜プリント資料を配布 各種義肢・装具モデル				
成績評価	定期試験100点満点中60点以上が合格点である。				
備考					
当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。					

科目名	地域作業療法支援論	単位数	1単位 30時間	開講年次	2学年 後期
担当教員	坂東仁志(作業療法士として実務経験5年)				
科目概要	地域作業療法の実践のために、その根幹にある社会背景や制度について学ぶ。 地域作業療法における具体的介入方法について学ぶ。				
一般目標	社会背景や制度、他職種との連携などについて学び、地域作業療法の実践のための基本的な知識を身につける。				
行動目標	地域作業療法の目的、現状について理解し説明できる。 地域作業療法の介入方法やその流れについて理解する。 「生活行為向上マネジメント」について理解し、説明できる。				
回数	講 義 内 容				
1	地域リハビリテーション・地域作業療法 概論				
2	地域リハビリテーション・地域作業療法 概論				
3	社会保障制度について				
4	介護保険制度について				
5	支援・連携について				
6	地域における作業療法の実践について				
7	地域における作業療法の実践について				
8	生活行為向上マネジメント 概論1				
9	生活行為向上マネジメント 概論2				
10	生活行為向上マネジメント 概論3				
11	生活行為向上マネジメント 演習1				
12	生活行為向上マネジメント 演習2				
13	生活行為向上マネジメント 演習3				
14	生活行為向上マネジメント 演習4				
15	まとめ				
教科書 及び 参考書	標準作業療法学 地域作業療法学 第4版（医学書院） 事例で学ぶ生活行為向上マネジメント 第2版（医歯薬出版株式会社）				
教授方法	講義・演習				
教材	プリント資料等				
成績評価	定期試験100点満点中60点以上が合格点である。意欲や授業態度も評価する。				
備考					
当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。					

科目名	福祉用具適合論	単位数	1単位 30時間	開講年次	2学年 後期
担当教員	小林温子(作業療法士として実務経験5年)				
科目概要	障害・生活ニーズ別の作業療法におけるさまざまな福祉用具の適合についての知識・技術を学習する。				
一般目標	福祉用具に関する作業療法治療アプローチの知識や技術を習得する。				
行動目標	福祉用具の貸与・購入や福祉用具に関わる生活環境整備に関する給付制度について説明できる。 生活行為別、障害特性別の福祉用具について説明できる。 自助具作製においての知識と技術を習得する。				
回数	講義内容				
1	福祉用具の概要、関連する法律や制度、福祉用具に関連する職種				
2	介護保険制度と障害者総合支援法に関わる支援の実際				
3	福祉用具アセスメントの流れ				
4	住環境に関わる福祉用具、福祉用具使用上のリスク				
5	ベッド・褥瘡予防用具の適合技術				
6	ベッド周辺機器(移乗ボード・リフト)の適合技術				
7	移動支援用具(杖・歩行器・車椅子)の適合技術				
8	入浴・排泄動作の福祉用具の適合技術				
9	整容・更衣動作の福祉用具の適合技術				
10	食事・家事・その他動作の福祉用具の適合技術				
11	環境制御装置について、自助具について				
12	自助具作成実習				
13	自助具作成実習				
14	自助具作成後の課題作成				
15	まとめ				
教科書 及び 参考書	教科書:「作業療法学全書 改訂第3版 第10巻 福祉用具の使い方・住環境整備」協同医書出版社 参考書:「日常生活活動(ADL) 第2版」医歯薬出版株式会社 参考書:「手作り自助具の工作技術」三輪書店				
教授方法	講義、演習、事例検討、自助具作製実習				
教材	教科書、プリント資料、福祉用具モデル、視覚教材等				
成績評価	定期試験100点満点中60点以上が合格点である。				
備考					
当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。					

科目名	評価実習	単位数	5単位200時間	開講年次	2学年 前・後期
担当教員	森口智恵美(作業療法士として実務経験5年) 坂東仁志(作業療法士として実務経験5年) 小林温子(作業療法士として実務経験5年) 濱 敬介(作業療法士として実務経験6年) 菅村拓也(作業療法士として実務経験5年) 吉川瑞貴(作業療法士として実務経験5年)				
科目概要	各期の臨床実習期間は15日間を原則とし、2期・2施設の臨床実習を行う。なお、通所リハビリテーション、訪問リハビリテーションに該当する施設においては地域実習として行う。臨床実習前に実習生の技術等に関して、実技試験等による評価を行い、直接対象者に接するに当たり、総合的知識及び基本的技能・態度を備えていることを確認する。また、実習生が診療チームの一員として加わり、臨床実習指導者の指導・監督の下で行う作業療法参加型臨床実習を基本とする。				
一般目標	典型的な障害特性を呈する対象者に対して、改善課題整理と目標設定、必要なプログラム立案ができるように評価能力を身につける。				
行動目標	1. 基本的態度 1) 常識的態度: 職業人としての常識的態度を身につける。 2) 責任ある行動: 専門職としての責任ある行動を身につける。 3) 自己管理: 自己管理ができる。 4) 意欲: 意欲的に取り組む姿勢(探求心・創造性)を身につける。 2. 評価における臨床技能／臨床思考過程 1) 評価計画: 情報収集・面接・観察・検査測定ができる。 2) 評価実施: 情報収集・面接・観察・検査測定ができる。 3. 管理運営 1) 物品管理: 治療器具・道具を安全に使用し管理ができる。 2) リスク管理: リスク管理について理解できる。 3) 記録: 記録文書(電子データ含む)の管理が適切にできる。 4) 連携: 他部門(他職種)との連携がとれる。 5) 施設理解: 施設の特徴について理解できる。				
実 施 内 容					
1	実習前オリエンテーション				
2	施設別オリエンテーション				
3	実習前評価Ⅱ(OSCE)				
4	評価実習 第1期				
5	実習後セミナー				
6	実習前オリエンテーション				
7	施設別オリエンテーション				
8	評価実習 第2期				
9	実習後セミナー				
10	実習後評価Ⅱ(OSCE)				
教授方法	講義・OSCE・臨床実習・グループディスカッション・発表				
成績評価	臨床実習指導者の意見を徴したうえで、学科長、及び専任教員が協議して行う。				
備考					

作業療法専門分野 3 学年

科目名	保健医療福祉論Ⅱ	単位数	1単位 30時間	開講年次	3学年 後期
担当教員	濱 敬介(作業療法士としての実務経験6年)				
科目概要	本講義では、1年次に学習した保健・医療・福祉分野に関わる基本的な知識をもとに、作業療法の対象となる主要な疾患や傷害の事例検討を通して、「保険医療と社会福祉」の関係を学ぶ。				
一般目標	事例の疾患・傷害の構造および全体像を十分に把握し、保健・医療・福祉分野における作業療法士の役割について理解できる。				
行動目標	疾患・傷害について説明できる。 保健・医療・福祉に関する法律や制度を説明できる。 各事例に即した法律や制度を理解できる。				
回数	講 義 内 容				
1	保健・医療制度（公衆衛生・地域保健ほか）				
2	社会保障制度（社会保険・医療保険・介護保険ほか）				
3	障害者総合支援法と障害福祉サービス				
4	身体障害者福祉法と関連制度				
5	児童福祉法と関連制度				
6	知的障害者福祉法と関連制度				
7	発達障害者支援法				
8	高齢者対策と介護保険制度				
9	事例検討① 脳血管障害と社会福祉サービス				
10	事例検討② 高次脳機能障害と社会福祉サービス				
11	事例検討③ 脊髄損傷と社会福祉サービス				
12	事例検討④ 内部障害と社会福祉サービス				
13	事例検討⑤ 神経変性・筋障害と社会福祉サービス				
14	事例検討⑥ 整形外科疾患と社会福祉サービス				
15	事例検討⑦ 発達障害と社会福祉サービス				
教科書 及び 参考書	入門リハビリテーション概論 第7版増補(医歯薬出版株式会社) リハビリテーション管理学(医学書院) 参考書)作業療法管理学入門 第2版(医歯薬出版株式会社)				
教授方法	講義・演習(事例検討時はグループワーク)				
教材	Power Point資料等				
成績評価	定期試験100点満点中60点以上が合格点である。				
備考					
当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。 1年次の保健医療福祉論Ⅰおよび2年次に学習した疾患・傷害の知識を復習しておく。					

科目名	作業療法管理学Ⅱ	単位数	1単位 30時間	開講年次	3学年 後期
担当教員	濱 敬介(作業療法士としての実務経験6年) 菅村拓也(作業療法士として実務経験5年)				
科目概要	作業療法研究の意義や目的・方法について理解し将来の研究活動に繋げる 作業療法研究の学習の一貫として症例報告のまとめを行う 作業療法部門の管理・運営、作業療法実践における職業倫理やリスクマネジメントなどについて学ぶ。				
一般目標	作業療法研究の意義や目的・方法を習得する 作業療法部門の管理・運営、リスクマネジメント、作業療法士としての職業倫理等の必要性について理解し、基本的知識を習得する				
行動目標	研究の意義や方法について説明することができる 症例報告の原稿を作成することができる 作業療法部門の管理・運営について説明することができる 作業療法を実施する際のリスクマネジメントについて説明できる				
回数	講 義 内 容				
1	医療安全のマネジメント				濱
2	作業療法士の職業倫理と研究倫理				濱
3	作業療法における研究法の基礎				濱
4	文献抄読①				濱
5	文献抄読②				濱
6	文献抄読③				菅村
7	文献抄読④				菅村
8	総合臨床実習第1期～全体症例報告会				菅村
9	総合臨床実習第1期～全体症例報告会				菅村
10	他職種連携事例検討会 準備				外部講師
11	総合臨床実習第2期～全体症例報告会～				菅村
12	総合臨床実習第2期～全体症例報告会～				菅村
13	他職種連携 事例検討会				外部講師
14	他職種連携 事例検討会				外部講師
15	他職種連携 事例検討会				外部講師
教科書 及び 参考書	リハビリテーション管理学(医学書院) 参考書)作業療法管理学入門 第2版(医歯薬出版株式会社)				
教授方法	講義・演習(症例報告の作成にあたっては、各担当教員からの個別指導となる)				
教材	適宜プリント資料を配布				
成績評価	成績評価100点満点中60点以上が合格点である。 100点満点で定期試験30点、文献抄読課題20点、症例報告課題50点で評価する。				
備考					
当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。 症例検討および症例報告会ではPower Point (Microsoft Office)を使用する。					

科目名	臨床作業療法学	単位数	1単位 30時間	開講年次	3学年 後期
担当教員	森口智恵美(作業療法士として実務経験5年) 坂東仁志(作業療法士として実務経験5年) 小林温子(作業療法士として実務経験5年) 濱 敬介(作業療法士として実務経験6年) 菅村拓也(作業療法士として実務経験5年)				
科目概要	本講義は1単位(30時間)科目であり、学内講義と演習課題により構成されます。身体障害や老年期障害、精神障害に対する作業療法について、評価から治療への過程について理解を深めます。				
一般目標	各障害領域における臨床的実践アプローチについて説明できる				
行動目標	身体障害分野における治療プログラムの立案ができる 精神障害分野における治療プログラムの立案ができる 演習により吸引技法を実践することができる				
回数	講 義 内 容				
1	治療計画の立案のポイント(精神疾患全般)				森口
2	治療計画の立案のポイント(精神疾患全般)				森口
3	治療計画の立案のポイント(認知症)				小林
4	治療計画の立案のポイント(認知症)				小林
5	治療計画の立案のポイント(身体障害分野)				坂東
6	治療計画の立案のポイント(身体障害分野)				坂東
7	治療計画の立案のポイント(高次脳機能障害)				濱
8	治療計画の立案のポイント(高次脳機能障害)				濱
9	治療計画の立案のポイント(高次脳機能障害)				濱
10	治療計画の立案のポイント(末梢神経障害)				菅村
11	治療計画の立案のポイント(末梢神経障害)				菅村
12	治療計画の立案のポイント(末梢神経障害)				菅村
13	呼吸器の基礎知識について				小林
14	吸引の実際について				小林・濱
15	吸引の実際について(吸引実習)				小林・濱
教科書 及び 参考書	各関連教科書				
教授方法	講義 演習				
教材	ビデオ プリント				
成績評価	定期試験				
配点割合	100点満点中60点以上が合格点である。 定期試験の内訳は小林30点、森口15点、坂東15点、濱20点、菅村20点とする。				
備考					
当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。					

科目名	総合作業療法学		単位数	3単位90時間	開講年次	3学年 後期
担当教員	森口智恵美(作業療法士として実務経験5年) 坂東仁志(作業療法士として実務経験5年) 小林温子(作業療法士として実務経験5年) 濱 敬介(作業療法士として実務経験6年) 菅村拓也(作業療法士として実務経験5年)					
科目概要	作業療法の各対象領域において、評価及び治療の実践について臨床実習の経験に基づき知識と経験の再統合を図り、資格取得後に臨床現場で作業療法が実施できる事を目標とする。					
一般目標	各領域における臨床実践について述べることができる。					
行動目標	各疾患に応じた評価を選択することができる。 各疾患の回復段階、予後予測に則した治療計画及び治療実践について説明できる。 社会資源の活用を含む、対象者の主体的生活の獲得を目標とした援助を考察できる。					
回数	講義内容		回数	講義内容		
1	精神障害領域の作業療法実践	森口	24	老年期領域の作業療法実践	小林	
2	精神障害領域の作業療法実践	森口	25	老年期領域の作業療法実践	小林	
3	精神障害領域の作業療法実践	森口	26	老年期領域の作業療法実践	小林	
4	精神障害領域の作業療法実践	森口	27	老年期領域の作業療法実践	小林	
5	精神障害領域の作業療法実践	森口	28	身体障害領域の作業療法実践2	濱	
6	精神障害領域の作業療法実践	森口	29	身体障害領域の作業療法実践2	濱	
7	精神障害領域の作業療法実践	森口	30	身体障害領域の作業療法実践2	濱	
8	精神障害領域の作業療法実践	森口	31	身体障害領域の作業療法実践2	濱	
9	精神障害領域の作業療法実践	森口	32	身体障害領域の作業療法実践2	濱	
10	身体障害領域の作業療法実践1	坂東	33	身体障害領域の作業療法実践2	濱	
11	身体障害領域の作業療法実践1	坂東	34	身体障害領域の作業療法実践2	濱	
12	身体障害領域の作業療法実践1	坂東	35	身体障害領域の作業療法実践2	濱	
13	身体障害領域の作業療法実践1	坂東	36	身体障害領域の作業療法実践2	濱	
14	身体障害領域の作業療法実践1	坂東	37	身体障害領域の作業療法実践3	菅村	
15	身体障害領域の作業療法実践1	坂東	38	身体障害領域の作業療法実践3	菅村	
16	身体障害領域の作業療法実践1	坂東	39	身体障害領域の作業療法実践3	菅村	
17	身体障害領域の作業療法実践1	坂東	40	身体障害領域の作業療法実践3	菅村	
18	身体障害領域の作業療法実践1	坂東	41	身体障害領域の作業療法実践3	菅村	
19	老年期領域の作業療法実践	小林	42	身体障害領域の作業療法実践3	菅村	
20	老年期領域の作業療法実践	小林	43	身体障害領域の作業療法実践3	菅村	
21	老年期領域の作業療法実践	小林	44	身体障害領域の作業療法実践3	菅村	
22	老年期領域の作業療法実践	小林	45	身体障害領域の作業療法実践3	菅村	
23	老年期領域の作業療法実践	小林				
教科書 及び 参考書	各領域に該当する現在までの教科書					
教授方法	講義					
教材	PowerPoint、授業プリント					
成績評価	定期試験					
配点割合	100点満点中60点以上が合格点である。 定期試験の内訳は森口20点、坂東20点、小林20点、濱20点、菅村20点とする。					
備考						
当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。						

科目名	職業関連活動論	単位数	1単位 30時間	開講年次	3学年 後期
担当教員	森口智恵美(作業療法士として実務経験5年)				
科目概要	就労支援に関する知識・技術を学び、職業リハビリテーションでの課題を理解する。				
一般目標	就労支援領域における基本的な作業療法について理解できる				
行動目標	就労支援の概要と意義を説明できる 職業リハビリテーションにおける作業療法士の役割を説明できる 障害者就労支援における現状と課題を説明できる				
回数	講義内容				
1	文献抄読				
2	文献抄読				
3	文献抄読				
4	文献抄読				
5	障害者雇用事例リファレンスサービス 事例検討				
6	障害者雇用事例リファレンスサービス 事例検討				
7	障害者福祉サービス事業所 あつぷる 施設見学				
8	障害者福祉サービス事業所 あつぷる 施設見学				
9	職業関連活動概説				
10	障害者と職業				
11	就労支援のプロセス①				
12	就労支援のプロセス②				
13	就労支援と作業療法				
14	統合失調症の就労支援				
15	まとめ				
教科書 及び 参考書	教科書:地域作業療法学 第4版 医学書院 参考書:作業療法学全書 改訂版3版 職業関連活動 協同医書出版社				
教授方法	講義、施設見学、グループワーク、文献抄読				
教材	PowerPoint、授業プリント				
成績評価	成績評価100点満点中60点以上が合格点である。 100点満点で定期試験50点、レポート課題50点の割合で評価する。				
備考					
当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。 授業の一部を利用して、就労継続支援B型施設の見学を実施します。挨拶を励行し、礼節ある行動に心がけてください。体調管理に気をつけ欠席のないように注意してください。					

科目名	総合臨床実習	単位数	18単位720時間	開講年次	3学年 前期
担当教員	森口智恵美(作業療法士として実務経験5年) 坂東仁志(作業療法士として実務経験5年) 小林温子(作業療法士として実務経験5年) 濱 敬介(作業療法士として実務経験6年) 菅村拓也(作業療法士として実務経験5年) 吉川瑞貴(作業療法士として実務経験5年)				
科目概要	各期の臨床実習期間は47日間を原則とし、2期・2施設の臨床実習を行う。なお、通所リハビリテーション、訪問リハビリテーションに該当する施設においては地域実習として40時間以上行う。臨床実習前に実習生の技術等に関して、実技試験等による評価を行い、直接対象者に接するに当たり、総合的知識及び基本的技能・態度を備えていることを確認する。また、実習生が診療チームの一員として加わり、臨床実習指導者の指導・監督の下で行う作業療法参加型臨床実習を基本とする。				
一般目標	典型的な障害特性を呈する対象者に対して、障害像の把握、治療目標及び治療計画の立案、治療実践並びに治療効果判定を実施することができる。				
行動目標	1. 基本的態度 1) 常識的態度:職業人としての常識的態度を身につける。 2) 責任ある行動:専門職としての責任ある行動を身につける。 3) 自己管理:自己管理ができる。 4) 意欲:意欲的に取り組む姿勢(探求心・創造性)を身につける。 2. 評価における臨床技能／臨床思考過程 1) 評価計画:情報収集・面接・観察・検査測定ができる。 2) 評価実施:情報収集・面接・観察・検査測定ができる。 3) 全体像:評価結果を整理し全体像を把握することができる。 4) 目標:目標を設定することができる。 5) 介入プログラム:介入プログラムを立案することができる。 3. 介入における臨床技能／臨床思考過程 1) 介入環境:介入環境の設定ができる。 2) 介入:介入プログラムを遂行できる。 4. 管理運営 1) 物品管理:治療器具・道具を安全に使用し管理ができる。 2) リスク管理:リスク管理について理解できる。 3) 記録:記録文書(電子データ含む)の管理が適切にできる。 4) 連携:他部門(他職種)との連携がとれる。 5) 施設理解:施設の特徴について理解できる。				
実 施 内 容					
1	実習前オリエンテーション				
2	施設別オリエンテーション				
3	実習前評価Ⅲ(OSCE)				
4	総合臨床実習 第1期				
5	実習後セミナー				
6	実習前オリエンテーション				
7	施設別オリエンテーション				
8	総合臨床実習 第2期				
9	実習後セミナー				
10	実習後評価Ⅲ(OSCE)				
教授方法	講義・OSCE・臨床実習・グループディスカッション・発表				
成績評価	臨床実習指導者の意見を徴したうえで、学科長、及び専任教員が協議して行う。				
備 考					

- 資料 1 作業療法学科 教科書一覧
- 資料 2 作業療法学科 カリキュラムマップ
- 資料 3 教育課程表（1 学年）
- 資料 4 教育課程表（2・3 学年）

資料 1

令和7年度 作業療法学科 教科書一覧

1学年	科目	書籍名	出版社
基礎分野	心理学	心理学・入門	有斐閣アルマ
	文学	絵本のひみつ	徳島新聞社
	教育学	系統看護学講座 基礎分野 教育学 第8版	医学書院
	物理学	看護・医療技術者のためのたのしい物理学 第2版	オーム社
	生物学	新体系 看護学全書 生物学 初版	メディカルフレンド社
	医学英語	20 Medical Dialogs 初版	鷹書房弓プレス
		THE ART OF HEALING 初版	南雲堂
専門基礎分野	英語	20 Medical Dialogs 初版	鷹書房弓プレス
		PT・OT・STのための解剖学 初版	廣川書店
		日本人体解剖学 上巻 改訂20版	南山堂
	解剖学	日本人体解剖学 下巻 改訂20版	南山堂
	生理学	PT・OTビジュアルテキスト 専門基礎 生理学	羊土社
	運動学	基礎運動学 第6版補訂	医歯薬出版社
	統計学	基礎統計 初版	培風館
専門分野	作業療法概論	標準作業療法学 作業療法学概論 第4版	医学書院
	基礎作業学実習	つくる・あそぶ作業活動実習マニュアル 第2版	医歯薬出版
	身体機能評価学Ⅰ	標準作業療法学 作業療法評価学 第4版	医学書院
		新徒手筋力検査法 原著第10版	協同医書
	身体機能評価学Ⅱ	標準作業療法学 作業療法評価学 第4版	医学書院
	精神機能評価学Ⅰ	精神障害と作業療法 新版	三輪書店

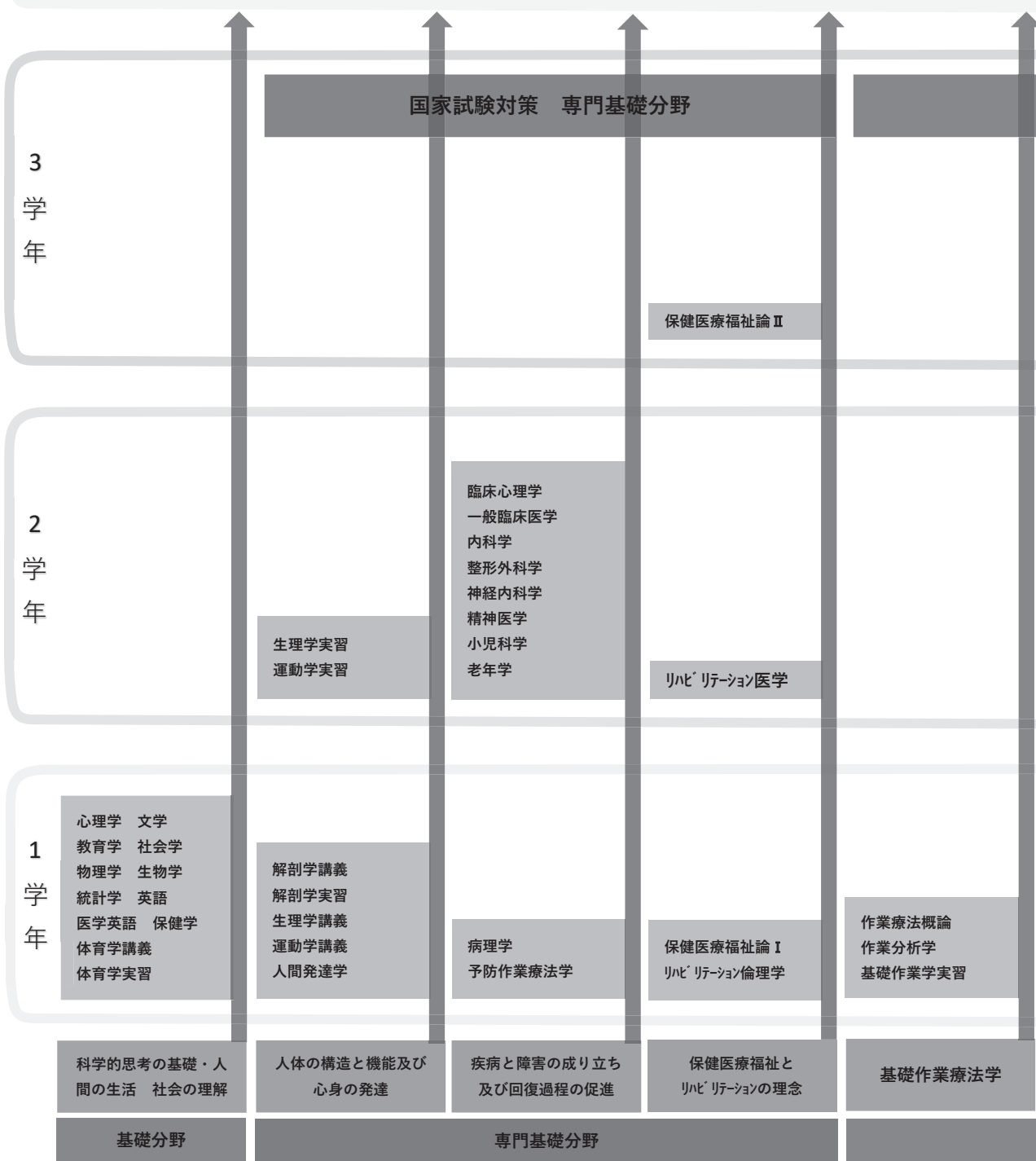
2学年	科目名	書籍名	書店名
	一般臨床医学	PT・OT・STのための一般臨床医学 第3版	医歯薬出版
	内科学	メディカルスタッフのための内科学 第5版	医学出版社
	整形外科学	標準整形外科学 第15版	医学書院
	神経内科学	標準理学療法学・作業療法学 神経内科学 第6版	医学書院
	小児科学	最新育児小児病学 改訂第7版	南江堂
	老年学	標準理学療法学・作業療法学 老年学 第6版	医学書院
	リハ医学	最新リハビリテーション医学 第3版	医歯薬出版
専門分野	作業療法管理学Ⅰ	作業療法管理学 第3版	医歯薬出版
	身体機能評価学Ⅲ	標準作業療法学 作業療法評価学 第4版	医学書院
		運動療法のための機能解剖学的触診技術動画プラス 上肢 改訂第2版	メジカルビュー社
		運動療法のための機能解剖学的触診技術動画プラス 下肢・体幹 改訂第2版	メジカルビュー社
	精神機能評価学Ⅱ	精神障害と作業療法 新版	三輪書店
	生活機能評価学	PT・OTビジュアルテキスト ADL 第2版	羊土社
	身体機能治療学Ⅰ・Ⅱ	標準作業療法学 身体機能作業療法学 第4版	医学書院
		リハ実践テクニック 脳卒中 第3版	メディカルビュー
		病気が見える Vol 7 脳と神経 改訂第2版	メディカルビュー
	老年期作業治療学	標準作業療法学 高齢期作業療法学 第4版	医学書院
		認知症のある人の生活と作業療法 第3版	三輪書店
		レクリエーション 改訂第3版	三輪書店
	高次脳機能治療学	高次脳機能障害のリハビリテーション 第3版	医学書院
		PT・OT基礎から学ぶ 画像の読み方 第4版	医歯薬出版
	障害別生活活動支援論	PT・OTビジュアルテキスト 姿勢・動作・歩行分析 改訂第2版	羊土社
	作業療法臨床技術論	熱可塑性スプリント作製マニュアルー基礎から臨床応用までー	三輪書店
	義肢装具学	義肢装具のチェックポイント 第9版	医学書院
	地域作業療法支援論	標準作業療法学 地域作業療法学 第4版	医学書院
		事例で学ぶ生活行為向上マネジメント 第2版	医歯薬出版
	生活環境論	生活機能学テキスト 改訂第2版	南江堂
	福祉用具適合論	作業療法学全書 第10巻 福祉用具の使い方・住環境整備 第3版	協同医書

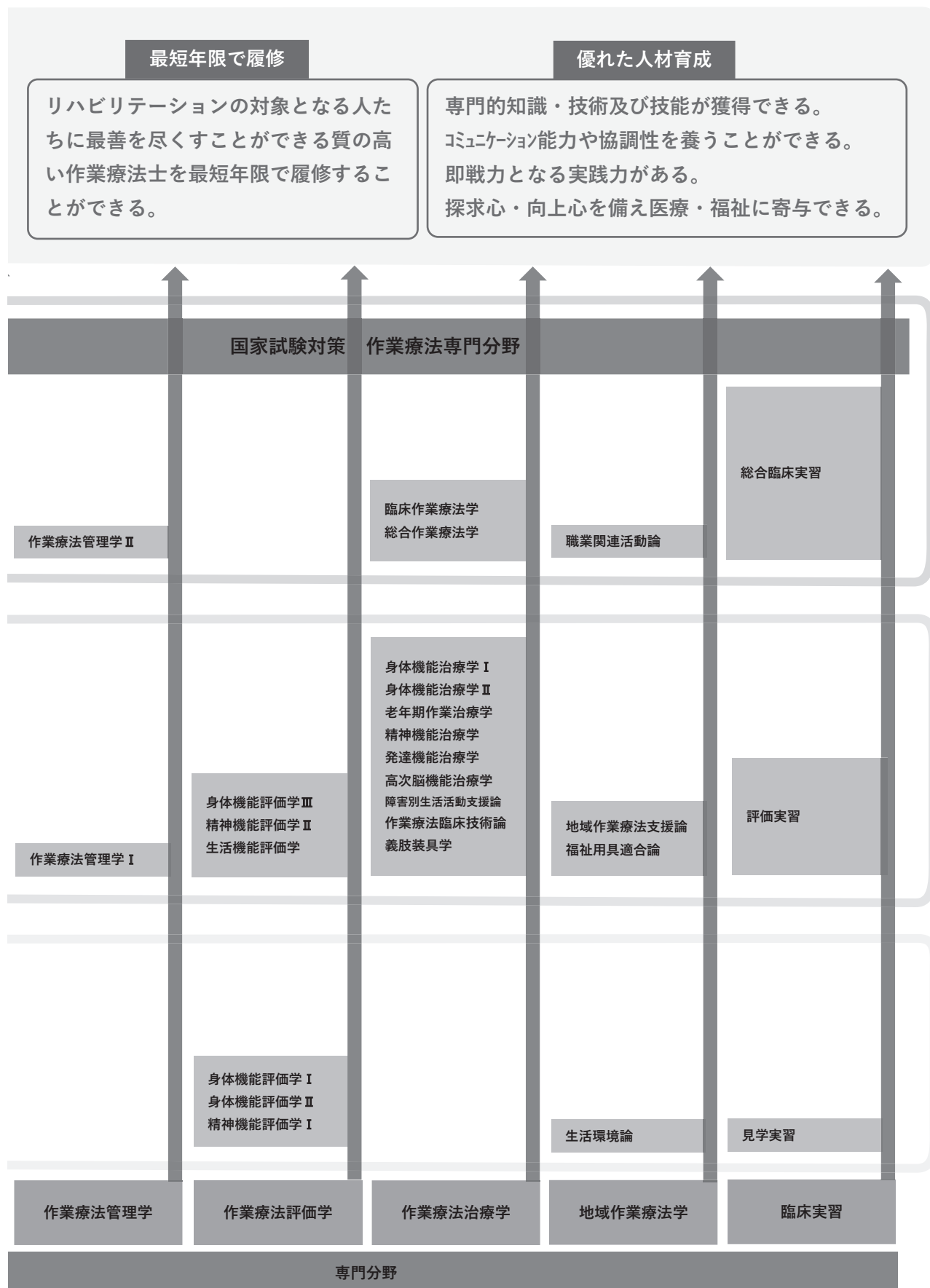
作業療法学科 カリキュラムマップ

ディプロマポリシー

全科目単位履修

理学療法士及び作業療法士法ならびに理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則を遵守し豊富な単位の履修ができる。





資料3

教育課程表

作業療法学科 1学年

基礎分野				1年		2年		3年	
科目		単位数	時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
人文	心理学	2	(60)	1 (30)	1 (30)				
	文学	1	(30)	1 (30)					
社会	教育学	1	(30)		1 (30)				
	社会学	1	(30)	1 (30)					
自然	物理学	1	(30)	1 (30)					
	生物学	2	(60)	1 (30)	1 (30)				
	統計学	1	(30)	1 (30)					
外国語	英語	1	(30)	1 (30)					
	医学英語	1	(30)		1 (30)				
保健体育	保健学 講義	1	(30)		1 (30)				
	体育学 講義	1	(30)		1 (30)				
	体育学 実習	1	(30)	1 (30)					
基礎分野合計		14	(420)	8 (240)	6 (180)				

専門基礎分野				1年		2年		3年	
I	解剖学Ⅰ	2	(60)	2 (60)					
	解剖学Ⅱ	2	(60)		2 (60)				
	解剖学Ⅲ	2	(60)		2 (60)				
	生理学 講義	3	(90)	1 (30)	2 (60)				
	生理学 実習	1	(45)			1 (45)			
	運動学 講義	1	(30)		1 (30)				
	運動学 実習	1	(45)			1 (45)			
	人間発達学	1	(30)		1 (30)				
小計		13	(420)	3 (90)	8 (240)	2 (90)			
II	病理学	1	(30)			1 (30)			
	臨床心理学	1	(30)			1 (30)			
	一般臨床医学	1	(30)				1 (30)		
	内科学	2	(60)			1 (30)	1 (30)		
	整形外科	2	(60)			1 (30)	1 (30)		
	神経内科学	2	(60)			1 (30)	1 (30)		
	精神医学	2	(60)			1 (30)	1 (30)		
	小児科学	1	(30)			1 (30)			
	老年学	1	(30)				1 (30)		
	予防作業療法学	1	(30)	1 (30)					
小計		14	(420)	1 (30)		7 (210)	6 (180)		
III	保健医療福祉論Ⅰ	1	(30)	1 (30)					
	保健医療福祉論Ⅱ	1	(30)						1 (30)
	リハビリテーション倫理学	1	(30)	1 (30)					
	リハビリテーション医学	1	(30)			1 (30)			
小計		4	(120)	2 (60)		1 (30)			1 (30)
専門基礎分野		31	(960)	6 (180)	8 (240)	10 (330)	6 (180)		1 (30)

作業療法学 1学年

専門分野				1年		2年		3年	
科目		単位数	時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
療 法 学	基礎作業療法概論	2	(60)	1 (30)	1 (30)				
	作業分析学	1	(30)	1 (30)					
	基礎作業学実習	2	(90)	2 (90)					
	小計	5	(180)	4 (150)	1 (30)				
管 理 学	作業療法管理学Ⅰ	1	(30)				1 (30)		
	作業療法管理学Ⅱ	1	(30)					1 (30)	
	小計	2	(60)				1 (30)		1 (30)
作 業 療 法 評 価 学	身体機能評価学Ⅰ	2	(60)	1 (30)	1 (30)				
	身体機能評価学Ⅱ	2	(60)		2 (60)				
	身体機能評価学Ⅲ	1	(30)			1 (30)			
	精神機能評価学	1	(30)		1 (30)				
	生活機能評価学	1	(30)			1 (30)			
	小計	7	(210)	1 (30)	4 (120)	2 (60)			
作 業 療 法 治 療 学	身体機能治療学Ⅰ	2	(60)			1 (30)	1 (30)		
	身体機能治療学Ⅱ	2	(60)			1 (30)	1 (30)		
	老年期作業治療学	2	(60)			1 (30)	1 (30)		
	精神機能治療学	2	(60)			1 (30)	1 (30)		
	発達機能治療学	2	(60)			1 (30)	1 (30)		
	高次脳機能治療学	1	(30)			1 (30)			
	障害別生活活動支援論	2	(60)			1 (30)	1 (30)		
	作業療法臨床技術論	2	(60)				2 (60)		
	義肢装具学	1	(30)				1 (30)		
	臨床作業療法学	1	(30)					1 (30)	
	総合作業療法学	3	(90)						3 (90)
小計		20	(600)			7 (210)	9 (270)		4 (120)
地 域 作 業 療 法 学	地域作業療法支援論	1	(30)				1 (30)		
	生活環境論	1	(30)		1 (30)				
	福祉用具適合論	1	(30)				1 (30)		
	職業関連活動論	1	(30)					1 (30)	
小計		4	(120)		1 (30)		2 (60)		1 (30)
臨 床 実 習	見学実習	2	(80)		2 (80)				
	評価実習	6	(240)			3 (120)	3 (120)		
	総合臨床実習	17	(680)					17 (680)	
小計		25	(1000)		2 (80)	3 (120)	3 (120)	17 (680)	
専門分野合計		63	(2170)	5 (180)	8 (260)	12 (390)	15 (480)	17 (680)	6 (180)
総計		108	(3550)	19 (600)	22 (680)	22 (720)	21 (660)	17 (680)	7 (210)
学年別実施単位数				41	(1,280)	43	(1,380)	24	(890)

()内 時間数

資料4

教育課程表

作業療法学科 2・3学年

基礎分野				1年		2年		3年	
科目		単位数	時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
人文	心理学	2	(60)	1 (30)	1 (30)				
	文学	1	(30)	1 (30)					
社会	教育学	1	(30)		1 (30)				
	社会学	1	(30)	1 (30)					
自然	物理学	1	(30)	1 (30)					
	生物学	2	(60)	1 (30)	1 (30)				
	統計学	1	(30)	1 (30)					
外国語	英語	1	(30)	1 (30)					
	医学英語	1	(30)		1 (30)				
保健体育	保健学 講義	1	(30)		1 (30)				
	体育学 講義	1	(30)		1 (30)				
	体育学 実習	1	(30)	1 (30)					
基礎分野合計		14	(420)	8 (240)	6 (180)				

専門基礎分野				1年		2年		3年	
I	解剖学Ⅰ	2	(60)	2 (60)					
	解剖学Ⅱ	2	(60)		2 (60)				
	解剖学Ⅲ	2	(60)		2 (60)				
	生理学 講義	3	(90)	1 (30)	2 (60)				
	生理学 実習	1	(45)			1 (45)			
	運動学 講義	1	(30)		1 (30)				
	運動学 実習	1	(45)			1 (45)			
	人間発達学	1	(30)		1 (30)				
小計		13	(420)	3 (90)	8 (240)	2 (90)			
II	病理学	1	(30)	1 (30)					
	臨床心理学	1	(30)			1 (30)			
	一般臨床医学	1	(30)				1 (30)		
	内科学	2	(60)			1 (30)	1 (30)		
	整形外科	3	(90)			2 (60)	1 (30)		
	神経内科学	2	(60)			1 (30)	1 (30)		
	精神医学	2	(60)			1 (30)	1 (30)		
	小児科学	1	(30)			1 (30)			
	老年学	1	(30)				1 (30)		
	予防作業療法学	1	(30)	1 (30)					
小計		15	(450)	2 (60)		7 (210)	6 (180)		
III	保健医療福祉論Ⅰ	1	(30)	1 (30)					
	保健医療福祉論Ⅱ	1	(30)						1 (30)
	リハビリテーション倫理学	1	(30)		1 (30)				
	リハビリテーション医学	1	(30)			1 (30)			
小計		4	(120)	1 (30)	1 (30)	1 (30)			1 (30)
専門基礎分野		32	(990)	6 (180)	9 (270)	10 (330)	6 (180)		1 (30)

作業療法学 2・3学年

専門分野				1年		2年		3年	
科目		単位数	時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
療 法 学	基礎作業学	2	(60)	1 (30)	1 (30)				
	作業療法概論	1	(30)	1 (30)					
	作業分析学	2	(90)	2 (90)					
	基礎作業学実習	2	(90)						
小計		5	(180)	4 (150)	1 (30)				
管 理 学	作業療法管理学Ⅰ	1	(30)				1 (30)		
	作業療法管理学Ⅱ	1	(30)					1 (30)	
小計		2	(60)				1 (30)		1 (30)
作 業 療 法 評 価 学	身体機能評価学Ⅰ	2	(60)	1 (30)	1 (30)				
	身体機能評価学Ⅱ	1	(30)		1 (30)				
	身体機能評価学Ⅲ	1	(30)			1 (30)			
	精神機能評価学Ⅰ	1	(30)		1 (30)				
	精神機能評価学Ⅱ	1	(30)			1 (30)			
	生活機能評価学	1	(30)			1 (30)			
小計		7	(210)	1 (30)	3 (90)	3 (90)			
作 業 療 法 治 療 学	身体機能治療学Ⅰ	2	(60)			1 (30)	1 (30)		
	身体機能治療学Ⅱ	2	(60)			1 (30)	1 (30)		
	老年期作業治療学	2	(60)			1 (30)	1 (30)		
	精神機能治療学	2	(60)			1 (30)	1 (30)		
	発達機能治療学	2	(60)			1 (30)	1 (30)		
	高次脳機能治療学	1	(30)			1 (30)			
	障害別生活活動支援論	2	(60)			1 (30)	1 (30)		
	作業療法臨床技術論	2	(60)				2 (60)		
	義肢装具学	1	(30)				1 (30)		
	臨床作業療法学	1	(30)						1 (30)
	総合作業療法学	3	(90)						3 (90)
小計		20	(600)			7 (210)	9 (270)		4 (120)
地 域 作 業 療 法 学	地域作業療法支援論	1	(30)				1 (30)		
	生活環境論	1	(30)		1 (30)				
	福祉用具適合論	1	(30)				1 (30)		
	職業関連活動論	1	(30)						1 (30)
小計		4	(120)		1 (30)		2 (60)		1 (30)
臨 床 実 習	見学実習	2	(80)		2 (80)				
	評価実習	6	(240)			3 (120)	3 (120)		
	総合臨床実習	17	(680)					17 (680)	
小計		25	(1000)		2 (80)	3 (120)	3 (120)	17 (680)	
専門分野合計		63	(2170)	5 (180)	7 (230)	13 (420)	15 (480)	17 (680)	6 (180)
総計		109	(3580)	19 (600)	22 (680)	23 (750)	21 (660)	17 (680)	7 (210)
学年別実施単位数				41	(1,280)	44	(1,410)	24	(890)

()内 時間数

学校法人 勝浦学園

徳島医療福祉専門学校 作業療法学科

〒771-4307

徳島県勝浦郡勝浦町大字三溪字平 128-1

TEL (0885) 42-4810 FAX (0885) 42-4815